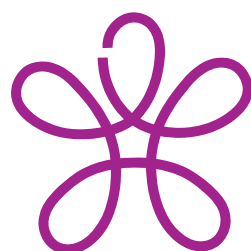


薬学部履修要項

2026

令和8年度 入学生用



近畿大学

はじめに

薬学部長

川崎直人

本冊子は、皆さんが薬学部で学修する上で留意すべき点を網羅した最も重要なガイドブックです。入学時にしか配布されませんので、卒業するまで大切に取扱いください。また、大学では履修する科目は自分で決めます。本冊子と同時に“シラバス（授業計画）”も参照し、慎重に履修計画を立て学修を進めるようにしてください。

薬学部では、卒業に要する単位数のみならず、各学年で取得すべき単位数も厳格に定められています。進級するには各学年で定められた科目を履修した上で、所定の単位数を充足しなければなりません。履修方法を誤ると単位数不足のために留年という事態になりかねません。本冊子を熟読の上、不明点や疑問点はアドバイザー教員や薬学部学生センター職員に相談してください。

医療薬学科の授業科目は、卒業時まで身に付けておくべき必須の能力が提示された「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」に準拠して編成されており、基礎的な科学を学ぶ科目と、薬剤師として必要な臨床知識・技能を学ぶ専門科目より構成されています。医学部と2つの病院を擁する総合大学という本学の特長を生かして、特徴のあるカリキュラム編成となっています。また、6年間の学修後、大学院博士課程（4年制）においてさらに高度な臨床研究能力の研鑽が可能です。

創薬科学科の授業科目は、薬に関わる広範な科学についての学修に加え、保健機能食品、化粧品も含め、人体に影響を与える物質を扱うあらゆる職域（医薬品、食品、化粧品業界等）で活躍できる人材の育成を目的とした授業科目で編成しています。特に、創薬研究・開発のための授業科目の編成に重点が置かれています。また、4年間の学修後、大学院博士課程（前期課程2年、後期課程3年）において、さらに専門的で高度な研究能力の獲得が期待されます。

本冊子では、両学科に共通する項目と、それぞれの学科独自の項目に分けて、履修上重要な事項が説明されています。両学科のカリキュラムは、薬学の基礎から専門までを幅広く学修し、社会に出てからそれぞれの専門性を発揮できるように構成されています。

1年次に**学部基礎科目**として「化学入門」「基礎化学」「生物学入門」「基礎生物学」が開講されますが、これらは薬学の根幹をなす化学と生物学の基礎を勉強し直し、薬学を学修するスタートとなる科目です。高校で化学または生物学を履修しなかった、あるいは入試で受験しなかったといった理由から、学力不足の人が毎年見受けられます。これらの科目や補習（リメディアル）授業を通し、1年の前期に化学・生物学の基礎固めをしてください。また、1年次前期に「近大ゼミ」が開講されます。「近大ゼミ」は通常の講義科目と異なり、皆さんが主役をつとめ自分の意志を人に伝え主張するための能力を養成する科目です。小グループに分かれ、グループ内で議論しながら課題についての成果を発表するユニークな科目です。学生同士あるいはアドバイザー教員との積極的なコミュニケーションを図り、学生生活を円滑に送れるようになるための第一歩としていただきたいと思います。

創薬科学科では3年次前期、医療薬学科では3年次後期から研究室に配属されて、卒業研究を開始します。卒業研究では、自分の能力を最大限に発揮して、卒業研究課題に挑戦することになります。また、問題解決

能力、論理的思考力やプレゼンテーション能力など、社会に出てから必要とされる能力に磨きをかけるための最も重要な学修の場です。卒業研究で、是非皆さんの能力を開花させてほしいと思います。

医療薬学科の皆さんは、1年次に必修科目として「早期体験学習」を受講します。病院・薬局見学や人体臓器観察などのバラエティーに富んだプログラムが準備されています。実践薬学に慣れ親しみ、“薬”という生命に関わる物質を扱う職業観に少しでも早く目覚めていただきたいと思います。また、4年次には「多職種連携学習」や「フィジカルアセスメント」実習などにより、高度な臨床現場に対応するための科目を配しています。さらに、4年次後期から5年次後期まで薬局・病院それぞれにおいて11週間にわたって実施される「臨床薬学実務実習」を受講します。また、希望者には薬学実践実習として、病院や薬局での長期実務実習などを履修する機会を設けています。これらの実務実習に先立ち、共用試験〔CBT(薬学の基礎知識確認)とOSCE(技能と態度についての試験)]が4年次後半に実施されます。OSCEおよび実務実習については臨床薬学部門教員や非常勤講師が全面的にサポートします。また、CBTおよび薬剤師国家試験のために、教育専門部門の教員を中心とした徹底指導体制や自学自習のためのe-ラーニングシステムが準備されています。普段の学修が薬剤師国家試験に合格できる実力を養成するために重要です。

創薬科学科の皆さんには、1年次で薬学基礎科目を徹底的に学んだのち、2年次より創薬研究者としての専門性を深めるカリキュラムを用意しています。その中で、2年次に開講する「オープンラボ」では、希望する研究室で研究体験することができます。また、国際学会での研究発表や医薬品開発の国際化に対応できるよう、実践的な英語科目が準備されていることも特徴です。さらに、特記すべきこととして、「特別科目等履修生制度」を導入し、成績優秀者については一定の条件を満たせば学部4年次に大学院博士前期課程において開講されている科目の履修を可能にしており、大学院博士前期課程を早期修了し、後期課程に進学することが可能です。

大学で専門的な知識・技能を身につけるには、自主的な学修が極めて重要です。本学の図書館以外に薬学部(39号館)1階や教育専門部門には、自習施設が完備されていますので、自由に勉強したり教員の指導を受けたりしながら学修することができます。さらに、KUDOSにはいつでも自由に使用できる環境にあるコンピュータも準備されています。これらの環境を積極的に活用して、学修に努めてください。

薬学部では学修すべき科目が非常に多く、その範囲も多岐にわたっています。1年次および2年次では基礎科目と多くの薬学専門科目を履修しなければなりません。本学薬学部は1年次および2年次で学修すべきことが、特に多いカリキュラム構成になっています。日々怠ることのない研鑽が重要です。**なお、各講義科目の単位を取得するには、講義回数の3分の2以上の出席が必要です。また実習や演習科目では原則すべて出席しなければ単位が認定されません。**

以上、本学薬学部における学修について全般的なことを取り上げて説明しました。本冊子を繰り返しよく読んで学修の指針としてください。

目 次

I	薬学部学年暦	1
II	教育方針	
	近畿大学教育方針	3
	薬学部教育方針	5
	医療薬学科教育方針	7
	創薬科学科教育方針	12
III	薬学部の学修	
1	年間行事予定	19
2	授業科目の構成	19
3	単位制	19
4	科目の履修及び履修登録	19
5	授 業	20
6	試 験	22
7	受験心得	23
8	成績評価	24
9	成績通知	24
10	GPA (Grade Point Average) 制度について	24
11	単位認定制度 (共通教養科目・外国語科目)	25
12	欠席の取り扱い	26
13	教員免許	27
14	レポートにおける剽窃 (盗用) 行為 (plagiarism) について	28
15	生成系 AI (ChatGPT、BingAI など) の利活用について	28
16	近畿大学データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム	29
IV	学修上の注意事項	
1	出席の重要性	30
2	提出期限の厳守	30
3	通知・案内の伝達方法	30
4	クラス編成	30
5	アドバイザー制度・学年相談員制度	30
6	メディカルサポートセンター	31
7	UNIPAマイステップについて	31
8	定期健康診断	31
9	実習時の安全対策及び廃棄物処理	31
10	気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱い	31
V	学籍関係の概略	
1	学籍番号	34
2	身上異動届	34
3	退学・再入学	34
4	休学・復学	34
5	除籍・復籍	34
6	転学部・転学科	35
VI	中央図書館案内	36
	医療薬学科	37
	創薬科学科	51
	英語発展科目について	63
	初修外国語について	64
	研究室一覧	68
	近畿大学校舎配置図	70

I 令和8年度 薬学部学年暦

月	日	(曜)	主 要 事 項	備 考
4	1	(水)	令和8年度 年度開始・オリエンテーション 英語・専門科目プレースメントテスト	新入生 新入生
	2	(木)	オリエンテーション・白浜研修	新入生
	3	(金)		
	4	(土)	入学式	新入生・保護者
	6	(月)	前期授業開始	
		}	履修登録	Web 履修登録
	15	(水)	※ 4/9 (木) 14時～4/10 (金) 終日は履修登録不可	
5	7	(木)	水曜日の授業を行います	
7	24	(金)	月曜日の授業を行います	
	25	(土)	補講日	
	27	(月)	前期定期試験 (予定)	
		}		
8	4	(火)	夏期休暇	
	5	(水)		
		}		
9	13	(日)	成績 (前期) 通知	
		(8月下旬)	前期再試験	
		(8月下旬～9月中旬)		
	14	(月)	後期授業開始	
10	13	(火)	月曜日の授業を行います	
11	1	(日)	大学祭及び学部祭	休講
		}		
	4	(水)	創立記念日	休講
	5	(木)		
	27	(金)		
12	24	(木)	冬期休暇	
		}		
1	7	(木)	後期授業再開	
	8	(金)		
	15	(金)	土曜日の授業を行います	
	27	(水)	補講日	
	28	(木)	後期定期試験 (予定)	
		}		
2	6	(土)	後期再試験	
		(2月中旬～3月上旬)	卒業該当者通知	
		(3月上旬)		
3	20	(土)	卒業式	
		(3月末)	成績・進級判定結果通知	
	31	(水)	令和8年度終了	

(注) 変更が生じたとき及び詳細については、その都度通知します。UNIPA等で必ず確認してください。

Ⅱ 近畿大学教育方針

本学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的として掲げてきました。この「建学の精神」と「教育の目的」は、知識基盤社会へ転換しようとする 21 世紀の日本において、いっそう必要とされる理念であると自負します。

本学が、総合大学として各学部の特徴を生かしながら、共に手を携えて目指そうとしているのは、「実学教育」と「人格の陶冶」の融合です。真の「実学」とは、必ずしも直接的な有用性を志向するだけではなく、その事柄の意味を学び取ることを含みます。現実立脚しつつも、歴史的展望をもち、地に足をつけて、しなやかな批判精神やチャレンジ精神を発揮できる、創造性豊かな人格の陶冶を志向するものです。「自主独往の気概に満ち」、生涯にわたって自己の向上に励み、社会を支える高い志をもつことが「人に愛され、信頼され、尊敬される」ことにつながります。このような学生を社会に送り出すことが、これからの時代に、本学が目指す社会的使命であります。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は、「建学の精神」と「教育の目的」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

1. 大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。
2. 問いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。
3. 専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身に付けていること。
4. 異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

本学は、「建学の精神」と「教育の目的」を実現するために、「全学共通科目」と「専門教育科目」を二本柱として、各学部学科の特徴を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。これらにより、学生はディプロマ・ポリシーにある資質および能力を以下のように身に付けます。

1. 全学共通科目および学部基礎科目では、文系・理系の枠を超え、入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供し、各学部における専門分野の学問へ導くとともに、学問する習慣を身に付けます。
2. 専門教育に携わっている教員が教養教育（全学共通科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。これにより、教養と専門教育の意味を幅広い視野から理解し、学ぶ意義と意欲を体得します。
3. 「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進め、社会に貢献できる知識と技能、探求心を身に付けます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性を育成します。

4. さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するため、グローバル教育の充実を図り、国際社会が共有する目標と文化的多様性の価値を理解し、国際感覚を身に付けます。さらに、海外の教育機関等との提携による国際スタンダード教育への参加を進めます。
5. 産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。社会人の学びの場（リカレント教育）を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを展開します。ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。これにより、社会貢献の意義と使命感を体得し、常に自らを高める自己教育力を身に付けます。
6. これらの達成度および学修の成果は、別に定める「評価の方針」によって評価を行います。

薬学部教育方針

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

薬学部では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」及び「医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で人類の福祉と健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出する」という教育目標を掲げています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（薬学）あるいは学士（薬科学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

1. 関心・意欲・態度

1. 医療や生命に関する高い倫理観と責任感を有し、社会および地域に貢献すべきであるという使命感を培っていること。
2. 最新の医療や創薬・生命科学関連領域の進歩について生涯にわたって学修する意欲を有していること。

2. 思考・判断

1. 生命の尊さを認識し、倫理的な判断ができること。
2. 人の健康に関わる者としての役割を理解し、自主的、かつ協調的に行動できること。

3. 技能・表現

1. 多職種連携やグローバル化社会で実践できるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけていること。
2. 基本的な研究手法と技能を修得、薬学の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を身につけていること。

4. 知識・理解

1. 高度な専門知識を身につけていること。
2. 幅広い教養と、グローバル化に対応した言語力、自然科学に関する幅広い知識を身につけていること。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

薬学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる教育目標を達成し、薬に関する幅広く高度な専門知識と優れた臨床能力を有する薬剤師、リサーチマインドを有し、医薬品の開発などに貢献できる人材を養成するために、医療薬学科では最先端の薬物治療や臨床薬学等に関する科目を、創薬科学科ではレギュラトリーサイエンスやゲノム科学等に関する特色ある科目を設置しています。

＜共通教養科目＞

高い倫理観と使命感を醸成するための人文・社会系の科目とともに、専門科目の理解に必要な基礎学力を養う自然科学系の科目を提供します。また、「近大ゼミ」では、少人数グループで薬学や生命科学に関する課題を自ら設定し、協働的に学修することで解決し、成果を発表すると共に、ルーブリック評価を取り入れて能動的な学修姿勢を醸成します。幅広い教養系科目を通して、専門科目の学修に対するモチベーションを高めます。

<外国語科目>

医薬品開発や製薬業界のグローバル化が進展する中で、グローバルに活躍できる人材を育成するために、ネイティブ教員を含む語学専任教員による少人数制の語学教育プログラムを導入し、外国語を継続的に修得できる科目を開講しています。さらに、英語圏以外の地域における言語・文化・社会を学修できるように、初修外国語としてドイツ語、フランス語、中国語を開講しています。これらの学修成果は、客観試験、論述試験、プレゼンテーションにより評価します。

<専門科目>

医療薬学科では、基礎薬学、衛生薬学や社会薬学に加え、最先端の医療薬学に関する講義、演習、実習を開講しています。臨床に直結する薬物治療等に関する科目に加えて、遺伝子治療や再生医療などに関係した最先端医療系科目を導入しています。また、倫理観や責任感を身につけるために、早期体験学習では病院における看護体験を、多職種連携学習ではチーム医療の基礎を学ぶため医学部の学生および看護学部の学生と小グループでのディスカッション・発表する機会を設けています。

創薬科学科では、医薬品開発を始め、食品薬学や香粧品に関する基礎から発展まで幅広い創薬研究に対応できる知識と技術を修得するための科目に加え、有機合成化学や分析化学関連の講義を充実させるとともに、ゲノム創薬や *in silico* 分子設計学など最先端の講義と実習も導入しています。また、プレゼンテーションや実践的な外国語を修得することができる科目を置いています。

各専門科目の評価には、知識を確認するための試験やレポートに加え、技能・態度はルーブリックにより評価されます。

<実習・演習科目>

課題発見・問題解決能力、コミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を身につけるため、両学科共に1年の情報科学実習から3年間にわたる実習科目を設定しています。また、3年から開始される長期にわたる卒業研究を通して、課題発見・問題解決能力を養うことのできるカリキュラムとしており、ルーブリック評価と発表会のプロダクト、プレゼンテーション及び質疑応答を複数の専任教員で評価しています。医療薬学科では、4年次以降にデータサイエンスを学ぶと共に、実務実習事前学習や病院と薬局における臨床薬学実習において、地域医療、チーム医療及び最先端の薬物治療に関する知識、技能及び態度を身につけることができます。創薬科学科では、グローバルに活躍できる人材を育成するため、プレゼンテーション能力や英語力の向上を目指した演習も開講しています。

医療薬学科教育方針

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

医療薬学科では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」という教育目標を達成するためのカリキュラムを策定しています。厳格な成績評価を行い、6年以上在学し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。

1. 豊かな人間性と高い倫理観を有し、患者・生活者の立場を理解して質の高い医療・福祉・公衆衛生を实践でき、社会および地域に貢献する意欲を生涯にわたって持ち続けること。
2. 患者・生活者に対する思いやりと多職種連携を实践できる医療人としての共感的コミュニケーション能力を身につけること。
3. 薬学に求められる広い教養、自然科学に関する知識、医療のグローバル化に対応できる言語力を身につけること。
4. 薬学の専門知識と基本的技能を修得し、情報科学を活用しながら医療の实践に応用できる能力を身につけること。
5. 薬物治療に関する基本的な研究技術と臨床技能を修得し、薬学的視点から医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を身につけること。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

医療薬学科では、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」ことを実現するため、以下のような方針で、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目、および本学独自の科目を年次に応じたカリキュラムとして配置し、その体系性や構造はカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーに明示しています。

<共通教養科目>

医療人に求められる広い教養、高い倫理および使命感を醸成するために人文・社会系の教養科目を、また、専門科目の理解に必要な基礎学力を養うために自然科学系の教養科目を提供します。定期試験等での成績評価を行い、双方向教育支援システムを用いる評価を奨励しています。自主的、協動的かつ能動的に学修・行動する能力とコミュニケーション能力を醸成するため、少人数グループ討論授業を実施します。討論・発表の内容をルーブリックで評価します。

<外国語科目>

医療のグローバル化に対応できる人材を育成するために、ネイティブ教員を含む語学専任教員による語学教育や臨床薬学英語などを実施して国際性を涵養します。これらの学修成果は、客観試験、論述試験、プレゼンテーションにより評価します。

<薬学基礎科目>

薬剤師の資質を活かして社会および地域に貢献するという使命感と、患者の立場を理解し、患者本位の医療の発展に寄与する意欲を醸成するために、初年次に専門性を持った教員によるオムニバス形式の薬学概論や医学部、医療施設、研究施設、企業等を訪問する早期体験学習を実施します。学修到

達状況は、レポート、客観・論述試験、プロダクトをルーブリックによるパフォーマンス評価などによって評価します。生命の尊さを認識して倫理的な判断力を醸成するために、グループ討議を取り入れた生命倫理を実施し、学修到達状況は、ルーブリックによるパフォーマンス評価、自己評価、他己評価によって評価します。医療人として必要とされる広い教養と自然科学に関する知識を身につけるために、入学初期からリメディアル教育を含む化学入門、基礎化学、生物学入門、基礎生物学を実施し、さらに、物理化学、分析化学、有機化学、薬用資源学、生化学、人体生理学、情報科学などの薬学基礎科目を体系立てて実施します。これらの学修到達状況は、客観試験や論述試験で評価します。

<薬学専門科目>

薬剤師の役割を理解し、自主的、かつ協調的に行動できる力、医療や人の健康に関わるうえで必要とされる広い教養と幅広い専門知識を修得するため、病態薬理学、製剤学、薬物動態学、薬物治療学、公衆衛生学、漢方薬学、薬学統計学などの薬学専門科目の講義・演習・実習を体系立てて実施し、双方向・対話型講義を導入しています。修得した知識は客観試験や論述試験で評価し、実習や演習の学修成果は、技能・態度に適した方法で評価します。また、高度で多様化する薬物療法に関する基本的技能の修得や多職種間での連携を実践できるコミュニケーション能力を醸成するため、実習では、小人数での参加体験型課題やグループディスカッションを積極的に実施します。学修到達状況は、レポート、プロダクトなどをルーブリックによるパフォーマンス評価によって評価します。さらに、基本的な研究技術と薬学・医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を身につけるために、3年次後期以降に学生が主体的に研究に携わる卒業研究を実施します。卒業研究では、医療・研究倫理に関する教育も行い、様々な問題について倫理的な判断ができる力を涵養しています。これらの学修成果は、プロダクトなどをルーブリックによるパフォーマンス評価によって評価します。

<薬学臨床科目>

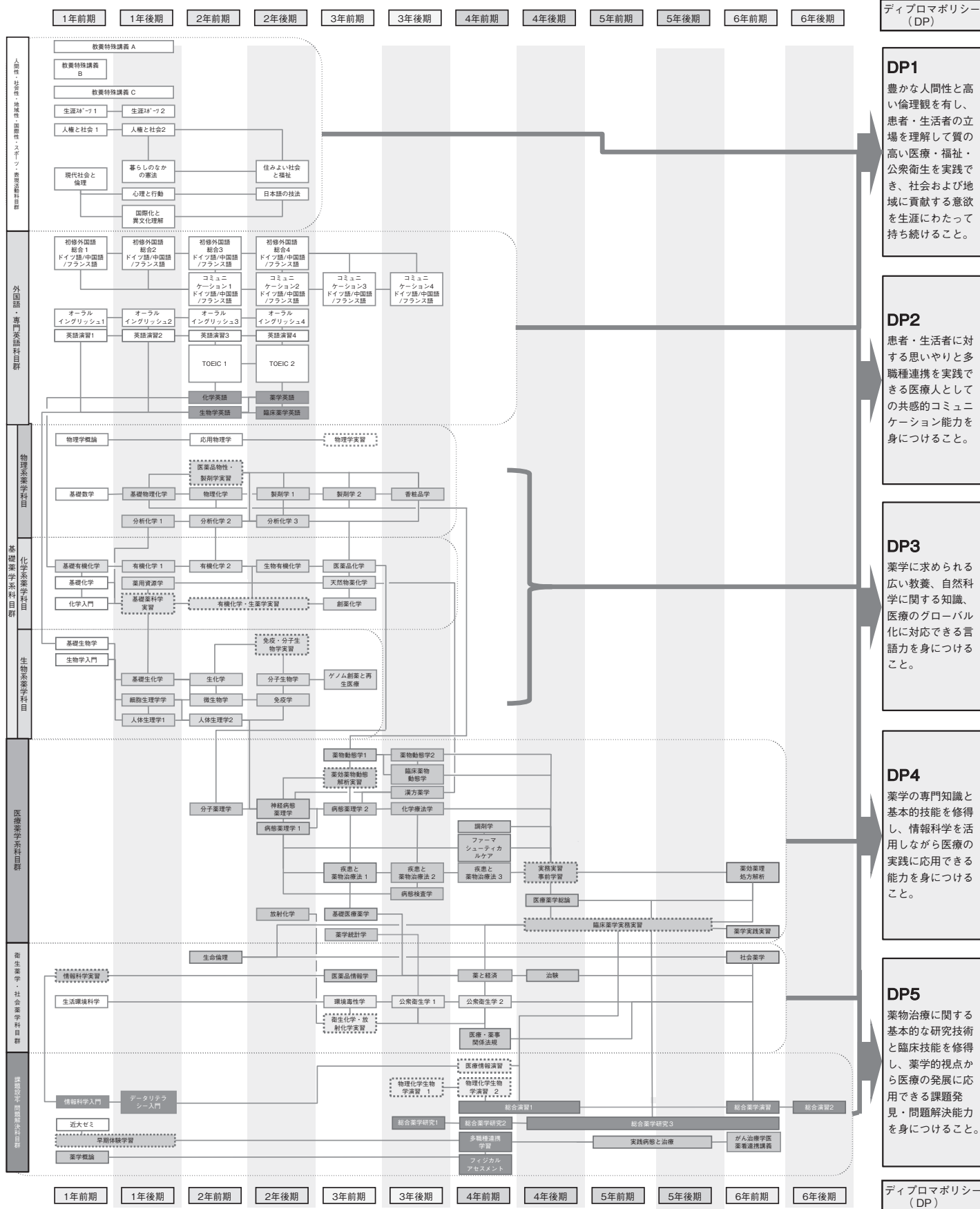
医療専門職としての薬剤師の役割を理解し、自主的、かつ協調的に行動できる力、薬剤師として必要とされる広い教養と医療に関する様々な問題を理解できる幅広い専門知識を修得するために、医薬品情報学、治験、社会薬学、医療薬事関係法規、多職種連携学習、フィジカルアセスメント、医療情報演習、臨床薬学実務実習などに関する薬学臨床科目の講義・演習・実習を体系立てて実施し、双方向・対話型講義を積極的に導入します。修得した知識は客観・論述試験で評価し、実習や演習では到達度やパフォーマンスの質を評価します。薬剤師に必要な調剤や服薬指導に関する基本的な技能を修得し、医療の実践で応用できる能力を身につけるとともに、多職種連携を実践できるコミュニケーション能力を高めるために、薬学臨床科目の実習では、グループワークなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、知識の評価とパフォーマンス評価を行います。修得した専門知識・技能・態度を基に、多種多様な薬物療法や技術に触れて薬学・医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を醸成させるために、4年次～5年次にかけて臨床現場で実践的な体験で知識を活かし技能を高める臨床薬学実務実習を実施します。医療に関する高い倫理観と責任感を有し薬剤師の使命感および患者本位の医療の発展に寄与する意欲を培い、医療における様々な問題について倫理的な判断ができるように、1年次から5年次までシームレスに薬学臨床科目の実習を実施します。その到達度はルーブリックによるパフォーマンス評価によって評価します。

薬学部・医療薬学科 カリキュラムマップ（令和8年度以降入学生）												
DP1 豊かな人間性が高い倫理観を有し、患者・生活者の立場を理解して質の高い医療・福祉・公衆衛生を実践でき、社会および地域に貢献する意欲を生涯にわたって持ち続けること。												
DP2 患者・生活者に対する思いやりと多職種連携を実践できる医療人としての共感的コミュニケーション能力を身につけること。												
DP3 薬学に求められる広い教養、自然科学に関する知識、医療のグローバル化に対応できる言語力を身につけること。												
DP4 薬学の専門知識と基本的技能を修得し、情報科学を活用しながら医療の実践に応用できる能力を身につけること。												
DP5 薬物治療に関する基本的な研究技術と臨床技能を修得し、薬学的視点から医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を身につけること。												
区分	科目コード	科目名	単位数	選択・必修	開講期	ディプロマポリシーに対する関与の程度（◎：密接に関与する、○：関与する）						
						DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
共通科目群	111	人権と社会1	2	選択	1前	◎						
	112	人権と社会2	2	選択	1後	◎						
	111	暮らしのなかの憲法	2	選択	1後	○		○				
	111	現代社会と倫理	2	選択	1前	◎						
	111	心理と行動	2	選択	1後	○	◎					
	121	住みよい社会と福祉	2	選択	2後	◎						
	111	教養特殊講義A	2	選択	1通			○				
	地域性・国際性科目群	111	生活環境科学	2	選択	1前	○		◎			
		111	国際化と異文化理解	2	選択	1後		◎	◎			
		111	教養特殊講義B	2	選択	1前	○					
	課題解決科目群	111	近大ゼミ	2	必修	1前		○			○	
		111	基礎数学	2	選択	1前			◎	○		
		111	情報科学入門	2	選択	1前			◎	○		
		111	データリテラシー入門	2	選択	1後			◎	○		
		111	物理学概論	2	選択	1前			◎		○	
		121	日本語の技法	2	選択	2後		◎	○			
	専門基礎科目	111	教養特殊講義C	2	選択	1通	○		○			
		111	生涯スポーツ1	1	選択	1前	○		○			
112		生涯スポーツ2	1	選択	1後	○		○				
111		基礎化学	2	必修	1前			◎	○	○		
外国語科目	111	基礎生物化学	2	必修	1前			◎	○	○		
	111	基礎生物学	2	必修	1前			◎	○	○		
	111	化学入門	2	必修	1前			◎	○	○		
	111	生物学入門	2	必修	1前			◎	○	○		
	英語	111	英語演習1	2	必修	1前		◎	○			
		112	英語演習2	2	必修	1後		◎	○			
		123	英語演習3	1	必修	2前		◎	○			
		124	英語演習4	1	必修	2後		◎	○			
	英語	111	オーラルイングリッシュ1	1	選択	1前		○	◎			
		112	オーラルイングリッシュ2	1	選択	1後		○	◎			
		123	オーラルイングリッシュ3	1	選択	2前		○	◎			
		124	オーラルイングリッシュ4	1	選択	2後		○	◎			
	英語	121	T O E I C 1	1	選択	2前		○	○			
		122	T O E I C 2	1	選択	2後		○	○			
		初修	111	ドイツ語総合1	1	選択	1前		○	○		
			112	ドイツ語総合2	1	選択	1後		○	○		
	123		ドイツ語総合3	1	選択	2前		○	○			
	124		ドイツ語総合4	1	選択	2後		○	○			
初修	121	ドイツ語コミュニケーション1	1	選択	2前		○	○				
	122	ドイツ語コミュニケーション2	1	選択	2後		○	○				
	133	ドイツ語コミュニケーション3	1	選択	3~4		○	○				
	134	ドイツ語コミュニケーション4	1	選択	3~4		○	○				
外国語	111	フランス語総合1	1	選択	1前		○	◎				
	112	フランス語総合2	1	選択	1後		○	◎				
	123	フランス語総合3	1	選択	2前		○	○				
	124	フランス語総合4	1	選択	2後		○	○				
外国語	121	フランス語コミュニケーション1	1	選択	2前		○	○				
	122	フランス語コミュニケーション2	1	選択	2後		○	○				
	133	フランス語コミュニケーション3	1	選択	3~4		○	○				
	134	フランス語コミュニケーション4	1	選択	3~4		○	○				
外国語	111	中国語総合1	1	選択	1前		○	◎				
	112	中国語総合2	1	選択	1後		○	◎				
	123	中国語総合3	1	選択	2前		○	○				
	124	中国語総合4	1	選択	2後		○	○				
外国語	121	中国語コミュニケーション1	1	選択	2前		○	◎				
	122	中国語コミュニケーション2	1	選択	2後		○	◎				
	133	中国語コミュニケーション3	1	選択	3~4		○	○				
	134	中国語コミュニケーション4	1	選択	3~4		○	○				
専門科目I群	211	基礎有機化学	2	選択必修	1前			◎				
	211	有機化学	1	選択必修	1後			◎				
	211	分析化学	1	選択必修	1後			◎		○		
	211	薬用資源化学	2	選択必修	1後			◎				
	211	基礎物理化学	2	選択必修	1後			◎		○		
	222	物理化学	2	選択必修	2前			◎		○		
	222	有機化学	2	選択必修	2前			◎				
	222	分析化学	2	選択必修	2前			◎		○		
	221	生物有機化学	2	選択必修	2後			◎				
	223	分析化学	3	選択必修	2後			◎				

区分	科目コード	科目名	単位数	選択・必修	開講期	ディプロマポリシーに対する関与の程度 (◎:密接に関与する、○:関与する)					
						DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
専門科目Ⅰ群	211	細胞生物学	2	選択必修	1後	○		○	◎		
	211	基礎生化学	2	選択必修	1後	○		○	◎		
	211	人体生理学 1	2	選択必修	1後	○		○	◎		
	221	分子薬理学	2	選択必修	2前	○		○	◎		
	222	人体生理学 2	2	選択必修	2前	○		○	◎		
	222	生化学	2	選択必修	2前			○	◎		
	221	微生物学	2	選択必修	2前			○	◎		
	221	免疫疫学	2	選択必修	2後	○		○	◎		
221	分子生物学	2	選択必修	2後	○		○	◎			
必修科目	311	薬学概論	2	必修	1前	◎	○				
	321	生命倫理	2	必修	2前	◎					
	321	神経病態薬理学	2	必修	2後				◎		
	331	疾患と薬物治療法 1	2	必修	3前				◎	○	
	331	基礎医療薬学	2	必修	3前	○		○	◎		
	331	医薬品情報学	2	必修	3前		○		◎	○	
	331	薬物動態学 1	2	必修	3前			○	◎		
	341	医薬連携学習	1	必修	4前		◎			○	
	341	調剤学	2	必修	4前		○	○	◎		
	341	ファーマシューティカルケア	2	必修	4前	○	◎				
	341	医療・薬事関係法規	2	必修	4前	○			◎		
	341	多職種連携学習	2	必修	4前				○	○	
	341	治療臨床	2	必修	4後	○		◎	○		
	351	実践病態と治療	2	必修	5通				◎	○	
	選択必修科目	321	放射化学	2	選択必修	2後			○	◎	
		321	製剤学	1	選択必修	2後			◎		○
		321	病態薬理学 1	2	選択必修	2後				◎	
332		病態薬理学 2	2	選択必修	3前			○	◎		
331		薬学統計学	2	選択必修	3前			○	◎		
332		製剤学	2	選択必修	3前			○	◎		
331		環境毒理性	2	選択必修	3前				◎		
331		医薬品化学	2	選択必修	3前			◎			
331		漢方薬学	2	選択必修	3後			◎	○		
331		化学療法学	2	選択必修	3後				◎		
331		病態検査学	2	選択必修	3後			◎		○	
331		臨床薬物動態学	2	選択必修	3後			◎	◎		
332		薬物動態学 2	2	選択必修	3後			○	◎		
332		疾患と薬物治療法 2	2	選択必修	3後				◎	○	
331		公衆衛生学 1	2	選択必修	3後			◎			
343		疾患と薬物治療法 3	2	選択必修	4前				◎	○	
341		薬と経済	2	選択必修	4前	○		◎			
342	公衆衛生学 2	2	選択必修	4前				◎			
361	社会薬学	2	選択必修	6前	○			◎			
361	薬効薬理処方解析	2	選択必修	6前	○			◎	○		
361	がん治療学医薬看義	2	選択必修	6前	○			◎	○		
専門英語	421	生物学英単語	1	選択必修	2前			◎	○		
	421	化学英単語	1	選択必修	2前			◎	○		
	421	薬学英単語	1	選択必修	2後			◎	○		
	421	臨床薬学英単語	1	選択必修	2後	○		◎	○		
アドバンスト科目	421	応用物理学	2	選択必修	2前			◎			
	431	天然物薬化学	2	選択必修	3前			◎			
	431	創薬化学	2	選択必修	3前			◎			
	431	ゲノム創薬と再生医療	2	選択必修	3前	○		○	◎		
	431	物理学実習	2	選択必修	3前	○		○		◎	
	431	化粧品学	2	選択必修	3後		○	◎			
実習・演習	511	情報科学実習	1	必修	1前			○	◎	○	
	511	基礎薬科学実習	1.5	必修	1後			○		◎	
	511	早期体験学習	1	必修	1通	○		○			
	521	医薬品物性・製剤学実習	1.5	必修	2前			○	○	◎	
	521	免疫・分子生物学実習	1.5	必修	2後			○	○	◎	
	521	有機化学・生薬学実習	1.5	必修	2通			○	○	◎	
	531	衛生化学・放射化学実習	1.5	必修	3前	○				◎	
	531	薬効薬物動態解析実習	1.5	必修	3前			○	○	◎	
	531	物理化学生物学演習 1	1	必修	3後			◎			
	531	総合薬学研究 1	2	必修	3後					◎	
	542	物理化学生物学演習 2	1	必修	4前			◎			
	542	総合薬学研究 2	2	必修	4前				○	◎	
	541	フィジカルアセスメント	0.5	必修	4前		○		○	○	
	541	医療情報演習	0.5	必修	4前		○		◎	○	
	541	実務実習事前学習	6	必修	4後	○	○			○	
	541	総合演習	1	3	必修	4通	○		◎	○	
	541	臨床薬学実務実習	20	必修	4～5通	◎	○			○	
543	総合薬学研究 3	4	必修	4～6通				○	◎		
551	薬学実践実習	4	選択必修	5～6通		○		◎	○		
561	総合薬学演習	4	必修	6前			○	◎	◎		
562	総合演習	2	4	必修	6後		○	◎	◎		

科目コード: A A A
 | | |
 区分 学年 レベル

薬学部 医療薬学科 カリキュラムツリー (令和8年度以降入学生)



創薬科学科教育方針

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

創薬科学科では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、「医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で社会と人類の福祉と健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出する」という教育目標を達成するためのカリキュラムを策定しています。厳格な成績評価を行い、（原則として）4年以上在学し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（薬科学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

DP1. 関心・意欲・態度

1. 生命に関する高い倫理観と責任感を有すること。
2. 薬の創製や開発、管理、適性使用等に関わる研究者、技術者、医薬品情報担当者としての資質を活かして社会に貢献する使命感を培っていること。
3. 創薬・生命科学関連領域の進歩について生涯にわたり学修し、キャリア形成を続ける意欲を有していること。
4. 幅広い教養を身につけ、変遷する国際社会で活躍するために、主体性を持って新しい知識を修得し、多様な職種の人材と協働的に学ぶ姿勢を身につけていること。

DP2. 思考・判断

1. 科学的思考に基づき、課題を探求し、最先端の科学的知識を取り入れ、問題を解決する論理的思考力を培っていること。
2. 医薬品等の創製・開発・管理・販売や人の健康に関わる者として必要とされる広い教養を有すること。

DP3. 技能・表現

1. グローバル社会で活躍するために、海外の最新の文献や情報を入手し、自らの意見を表現できる英語力を身につけていること。
2. 創薬における基本的な研究手法と技能を修得し、社会人として必要とされるコミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を身につけていること。

DP4. 知識・理解

1. 創薬科学・生命科学に関する専門知識を修得していること。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

創薬科学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる教育目標を達成し、医薬品の創製や生命科学分野、医療産業において、グローバルに活躍できる人材を社会に輩出するため、医薬品創製に関する基礎教育を行うとともに、最先端の生命科学研究の知識とテクノロジーに関する講義と実習を行います。

特に、強い探究心と高い倫理観を持ち、「課題発見・問題解決能力」、「コミュニケーション能力」、「ディスカッション能力」に秀でた人材を育成すること、社会で通用する実践力の高いキャリア形成に主眼を置いています。カリキュラムの体系性や構造はカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーに明示しています。

<共通教養科目>

人文・社会・自然科学にわたる幅広い科目の学修を通し、豊かな教養と高い倫理観を身につけます。

総合大学ならではの医学部・法学部・薬学部合同講義となる「教養特殊講義B」では、尊厳死、安楽死、臨死介助、死生観などの医療・生命倫理を学修します。

初年次の「近大ゼミ」では、少人数グループで薬学や生命科学に関する課題を自ら設定し、文献調査やフィールドワークを通して協働的に学修することで解決し、成果を発表します。これらを通し、能動的・主体的な学修姿勢を涵養します。評価にはルーブリックを用います。

また、地域性・国際性科目群では「国際化と異文化理解」を開講し、変遷する国際社会で活躍するための基礎知識を学びます。

<外国語科目>

グローバルに活躍できる人材を育成するために、英語教育に力を入れています。1・2年次には各 Semester に語学教員による週2回の「英語演習」と週1回の「オーラルイングリッシュ」を必修とし、継続的に英語に触れ、専門英語につながる基礎力の向上をはかります。

また、英語圏以外の地域における言語・文化・社会についての学修のため、初修外国語としてドイツ語、フランス語、中国語の各科目を置いています。

<学部基礎科目>

1年次後期から始まる薬学専門科目を学修するうえで必要となる、化学および生物の基礎力を確かなものとするための必修科目群を設置しています。特に、高校で化学あるいは生物を履修していない学生には、リメディアル教育を含めて基礎知識を修得できる機会となります。

<専門科目>

医療の担い手として求められる倫理観を、1年次前期開講の「薬学概論」と「教養特殊講義B」を通して入学後の早期から涵養し、「卒業研究」や「医薬品開発論」を通し、研究倫理や安全性や信頼性といった医薬品における倫理性について学びます。

薬学を理解するためには、他の理系分野とは異なり、幅広い分野にまたがる知識の修得が必要となります。各分野の基礎的な知識をまんべんなく修得するために必修科目として設定し、より多彩な知識を身につけた学生の輩出を目指します。またこれら知識を習得することで、医薬品の創製にかかわる必須の知識に加え、医薬分子と生命現象、疾病や病態との関わりを分子レベルから生体レベルまで解析する最先端の生命科学研究の知識とテクノロジーを体系的に学ぶことができます。

一方、希望する薬学部の研究室で研究を早期体験できる「オープンラボ」(2年)は、創薬科学科の特色のある科目の一つで、実際の研究を体験することで専門科目の学びの必要性を理解し、学修するモチベーションを高めることができます。

<専門英語科目>

研究室に配属後は、学術論文を読むことは必須となりますが、専任教員による「薬学専門英語」では文献を講読するうえで基本となる化学・生物の専門用語や学術論文の構成などを学びます。これにより、研究を進める上で必要となる情報を自ら得ることができるようになります。

また、語学専門教員および留学経験のある教員による「プレゼンテーション英語演習」では、国際学会で研究成果を発表するうえでの基本的な知識・スキルを学ぶことを通し、研究者として不可欠な英語におけるコミュニケーションやプレゼンテーション能力を高めることができます。

<実習科目>

1年次には、「情報科学実習」や「データリテラシー入門(共通教養科目)」により、勉学や研究のみならず今後の社会生活を営む上で必要となるICTの活用スキルを身につけます。また、2年次から始まる専門実習の基本的な手技を「基礎薬科学実習」で学びます。

2年次からの専門実習では、専門科目の講義で学修した知識や技術を実習で体験することにより理解を深めるとともに、研究室配属後の研究活動にすぐに活用できるスキルを獲得できます。

3年次前期から研究室配属になり実施する「卒業研究」は、創薬科学科の学びの中で最も重要な位置づけにあります。課題を探求し、最先端の科学的知識を取り入れ、問題を解決する論理的思考力を養成します。また、定期的に研究成果を報告することにより、プレゼンテーションやコミュニケーション、ディスカッション能力を高めます。そして、研究者倫理に則り、最後まで倫理観・責任感・使命感をもって研究を遂行することで、社会で通用する実践力を養成します。卒業論文および卒業研究発表会のプレゼンテーションと質疑応答等により専任教員が達成度を評価します。

<キャリア形成関連科目>

アドバンスト科目Ⅰおよびアドバンスト科目Ⅱでは、専門科目で学んだ知識を深め、より専門的な知識を学ぶための科目を配しています。さらに漢方・食品・香粧品などの多様な薬学関連科目を配し、学生個々の興味や進路に応じて学ぶことができると同時に、広い視野を獲得し、様々な専門性・職種の人材と交流できる知識・姿勢を涵養します。

実践科目では、これまで学んだ知識をもとに社会に出て活躍する上で必要な実践的な内容を学ぶ科目を配置しています。2年次の「キャリアデザイン」では、広い視野で就職および生涯にわたるキャリア形成を考える機会を提供するとともに、「進路・就職活動」の意識づけを行います。また、「医薬品開発論」では医薬品の開発過程を学ぶとともに、グループディスカッションなどを通して医薬品開発において重要なレギュラトリーサイエンスについても考えていきます。

また3年次の「産学連携講座」では、様々な業種で働いておられる卒業生の方に会社や業界の現状について講演していただき、就職活動に備え、必要な知識を学んでいきます。さらにインターンシップに積極的に参加してもらうとともに、そこで得た情報を多くの人と共有できるように「インターンシップ」も開講します。

臨床検査技師国家試験の受験資格取得希望者には、近畿大学病院等との連携のもと、薬学の専門科目を学びながら臨床検査技師の基礎知識・臨床技能を身につけるカリキュラムを展開しています（選択必修科目ⅠB、ⅡBおよび自由選択科目）。

薬学部・創薬科学科 カリキュラムマップ (令和8年度以降入学生)

DP 1 関心・意欲・態度

- 1) 生命に関する高い倫理観と責任感を有すること。
- 2) 薬の創製や開発、管理、適正使用等に関わる研究者、技術者、医薬品情報担当者としての資質を活かして社会に貢献する使命感を培っていること。
- 3) 創業・生命科学関連領域の進歩について生涯にわたり学修し、キャリア形成を続ける意欲を有していること。
- 4) 幅広い教養を身につけ、変遷する国際社会で活躍するために、主体性を持って新しい知識を修得し、多様な職種の人材と協働的に学が姿勢を身につけていること。

DP 2 思考・判断

- 1) 科学的思考に基づき、課題を探究し、最先端の科学的知識を取り入れ、問題を解決する論理的思考力を培っていること。
- 2) 医薬品等の創製・開発・管理・販売や人の健康に関わる者として必要とされる広い教養を有すること。

DP 3 技能・表現

- 1) グローバル社会で活躍するために、海外の最新の文献や情報を入手し、自らの意見を表現できる英語力を身につけていること。
- 2) 創業における基本的な研究手法と技能を修得し、社会人として必要とされるコミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を身につけていること。

DP 4 知識・理解

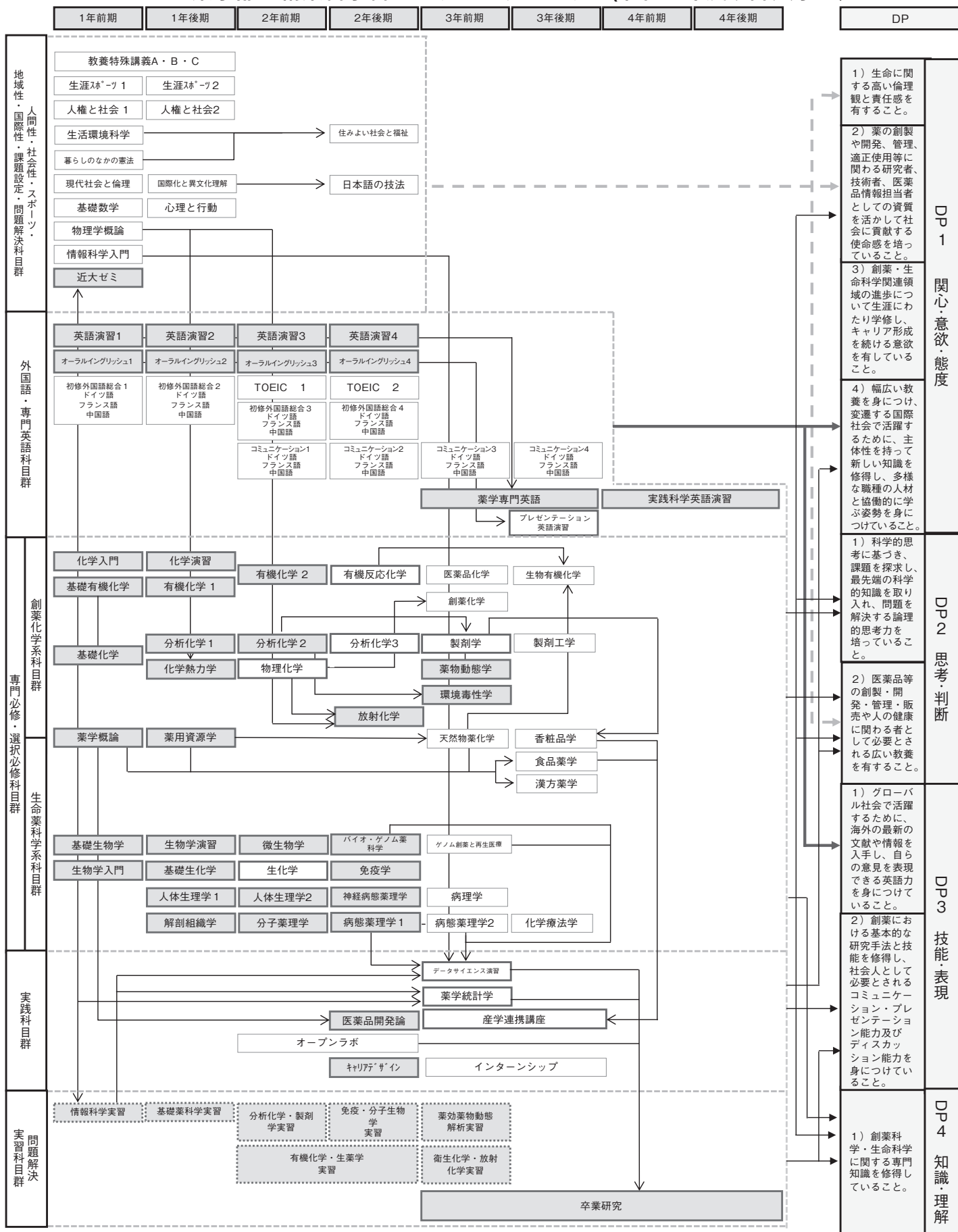
- 1) 創薬科学・生命科学に関する専門知識を修得していること。

区分	科目コード	科目名	単位数	選択・必修	開講期	ディプロマポリシーに対する関与の程度 (◎: 密接に関与する, ○: 関与する)													
						DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP1-4	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP4-1					
共通 教養 科目	人間性・社会性科目群	111 人権と社会 1	2	選択	1前	○			○		◎								
		112 人権と社会 2	2	選択	1後	○			○		◎								
		111 暮らしのなかの憲法	2	選択	1後	○			○		◎								
		111 現代社会と倫理	2	選択	1前	◎			○		◎								
		111 心動と行動	2	選択	1後	○			○	○	◎								
		121 住みよい社会と福祉	2	選択	2後	○					◎								
	地域性・国際性科目群	111 生活環境科学	2	選択	1前		○				◎								
		111 国際化と異文化理解	2	選択	1後				○		◎								
		111 教養特殊講義 B	2	選択	1通		◎												
		111 近大ゼミ	2	必修	1前		○			○					◎				
		111 基礎数学	2	選択	1前					◎							○		
		111 情報科学入門	2	選択	1前										○	◎			
		111 物理科学概論	2	選択	1前					◎								○	
		121 日本語の技法	2	選択	2後							◎				○			
		111 教養特殊講義 C	2	選択	1通			○			○					○			
		科目現 活動表	111 生涯スポーツ 1	1	選択	1前						○							
			112 生涯スポーツ 2	1	選択	1後						○							
		専門基礎科目	111 基礎化学	2	必修	1前						○	○						◎
111 基礎生物学	2		必修	1前						○	○						◎		
111 化学入門	2		必修	1前				○	○	○	○						◎		
111 生物学入門	2		必修	1前				○	○	○	○						◎		
外国語科目	英語	111 英語演習 1	2	必修	1前						○				◎				
		112 英語演習 2	2	必修	1後						○				◎				
		121 英語演習 3	2	必修	2前						○				◎				
		122 英語演習 4	2	必修	2後						○				◎				
		111 オーラルイングリッシュ 1	1	必修	1前										◎				
		112 オーラルイングリッシュ 2	1	必修	1後										◎				
		121 オーラルイングリッシュ 3	1	必修	2前										◎				
		122 オーラルイングリッシュ 4	1	必修	2後										◎				
		121 T O E I C 1	1	選択	2前										○				
		122 T O E I C 2	1	選択	2後										○				
		初修外国語	111 ドイツ語総合 1	1	選択	1前										○		○	
			112 ドイツ語総合 2	1	選択	1後										○		○	
	121 ドイツ語総合 3		1	選択	2前										○		○		
	122 ドイツ語総合 4		1	選択	2後										○		○		
	121 ドイツ語コミュニケーション 1		1	選択	2前										○		○		
	122 ドイツ語コミュニケーション 2		1	選択	2後										○		○		
	131 ドイツ語コミュニケーション 3		1	選択	3~4										○		○		
	132 ドイツ語コミュニケーション 4		1	選択	3~4										○		○		
	111 フランス語総合 1		1	選択	1前										○		○		
	112 フランス語総合 2		1	選択	1後										○		○		
	121 フランス語総合 3		1	選択	2前										○		○		
	122 フランス語総合 4		1	選択	2後										○		○		
	121 フランス語コミュニケーション 1	1	選択	2前										○		○			
	122 フランス語コミュニケーション 2	1	選択	2後										○		○			
131 フランス語コミュニケーション 3	1	選択	3~4										○		○				
132 フランス語コミュニケーション 4	1	選択	3~4										○		○				
必修科目	111 中国語総合 1	1	選択	1前										○		○			
	112 中国語総合 2	1	選択	1後										○		○			
	121 中国語総合 3	1	選択	2前										○		○			
	122 中国語総合 4	1	選択	2後										○		○			
	121 中国語コミュニケーション 1	1	選択	2前										○		○			
	122 中国語コミュニケーション 2	1	選択	2後										○		○			
	131 中国語コミュニケーション 3	1	選択	3~4										○		○			
	132 中国語コミュニケーション 4	1	選択	3~4										○		○			
	211 薬学概論	2	必修	1前			◎	◎	◎	○		○							
	211 基礎有機化学	2	必修	1前							◎						◎		
	212 有機化学 1	2	必修	1後				○			◎				○		◎		
	211 薬用資源学	2	必修	1後							◎						◎		
211 基礎生化学	2	必修	1後							○						◎			
211 人体生理学 1	2	必修	1後							○						◎			
211 分析化学 1	2	必修	1後							◎					○	◎			
211 化学熱力学	2	必修	1後				○	○	◎						○	◎			
211 化学演習	1	必修	1後							○					○	◎			
211 生物学演習	1	必修	1後							○					○	◎			
211 解剖組織学	2	必修	1後							◎						◎			

区分	科目コード	科目名	単位数	選択・必修	開講期	ディプロマポリシーに対する関与の程度 (◎：密接に関与する、○：関与する)										
						DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP1-4	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP4-1		
必修科目	222	人体生理学	2	必修	2前					○					◎	
	222	分子薬理学	2	必修	2前										◎	
	222	有機化学	2	必修	2前			○		○		○			◎	
	222	分析化学	2	必修	2前					○			○		◎	
	222	微生物学	2	必修	2前					○			○		◎	
	223	バイオ・ゲノム薬科学	2	必修	2後	○		○		○			○		◎	
	224	神経病態薬理学	2	必修	2後					○			○		◎	
	224	免疫学	2	必修	2後					○			○		◎	
	224	放射化学	2	必修	2後					○			○		◎	
	224	病態薬理学	1	必修	2後	○				○			○		◎	
235	環境毒理学	2	必修	3前	○					○				○		
235	薬物動態学	2	必修	3前					◎			○		◎		
選択必修科目 I	A群	222	物理化学	2	選択必修	2前					○			○	◎	
		220	生化学	2	選択必修	2前									◎	
		223	有機反応化学	2	選択必修	2後					○			○	◎	
		224	分析化学	3	選択必修	2後					○			○	◎	
		235	製剤学	2	選択必修	3前					◎			○	◎	
	235	薬学統計学	2	選択必修	3前					○			○	◎		
	210	医療安全管理学	1	選択必修	1後	○					○				○	
	220	栄養学	0.5	選択必修	2前	○			○						○	
	220	一般検査学	2	選択必修	2前						○				○	
	220	血液検査学	3	選択必修	2前						○				○	
	220	医療安全管理学	2	1	選択必修	2後	○				○				○	
	220	微生物検査学	3	1	選択必修	2後					○				○	
	230	公衆衛生学	2	選択必修	3前	○					○				○	
	B群	436	データサイエンス演習	1	選択必修	3前				○						○
		438	プレゼンテーション英語演習	2	選択必修	3後		○			◎			○	◎	◎
		436	産学連携講座	1	選択必修	3通					◎					○
		230	染色体検査学	0.5	選択必修	3前						○				○
		230	検査機器総論	0.5	選択必修	3後						○				○
530		輸血・移植検査学実習	1	選択必修	3通						○				○	
530		生化学検査学実習	0.5	選択必修	3通						○				○	
530		病理検査学実習	1	選択必修	3通						○				○	
選択必修科目 II	A群	530	免疫検査学実習	0.5	選択必修	3通					○				○	
		336	天然物薬化学	2	選択	3前						○		○	◎	
		336	医薬品化学	2	選択	3前	○					○		○	◎	
		336	創薬化学	2	選択	3前					○			○	◎	
		336	病態薬理学	2	選択	3前					○			○	◎	
	B群	336	ゲノム創薬と再生医療	2	選択	3前		○	○					○	◎	
		336	病理学	2	選択	3前						○			○	
		436	香粧品学	2	選択	3後					○	○		○	◎	
		436	漢方薬学	2	選択	3後	○					○			◎	
		436	生物有機化学	2	選択	3後						○			◎	
実践科目	A群	436	製剤工学	2	選択	3後					○		○	◎		
		436	食品薬学	2	選択	3後	○				○			◎		
		436	化学療法	2	選択	3後					○		○	◎		
		525	オープンラボ	1	選択	2通		◎	○					○	◎	
		225	キャリアデザイン	1	必修	2後		○	○			◎		○	◎	
	B群	225	医薬品開発論	2	必修	2後		◎			◎		○	◎	◎	
		538	インターンシップ	1	選択	3通		◎	○	○		○			◎	
		530	臨地実習事前学習	1	選択	3後	○	○	○						◎	
		337	薬学専門英語	2	必修	3通					○		◎		◎	
		447	実践科学英語演習	1	必修	4通							◎	○	◎	
自由選択科目	A群	210	臨床検査総合管理学	1	3	選択	1後	○				○			○	
		520	一般検査学実習	1	1	選択	2前					○			○	
		220	疾患の検査診断学	1.2	1.2	選択	2後					○			○	
		520	微生物検査学実習	1.2	1.2	選択	2後					○			○	
		520	物理学実習	2	1	選択	2通					○	○		◎	
		520	血液検査学実習	1	1	選択	2通					○	○		◎	
		520	医療安全管理学実習	0.5	0.5	選択	2通	○				○			◎	
		230	輸血・移植検査学	3	3	選択	3前					○			◎	
		230	生化学検査学	2	2	選択	3前					○			◎	
		230	病理検査学	4	2	選択	3前					○			◎	
	B群	230	疾患の検査と治療法	1	2	選択	3前					○			◎	
		230	臨床検査総合管理学	2	3	選択	3後	○				○			◎	
		230	疾患の検査と治療法	2	2	選択	3後								◎	
		230	病態検査学	2.4	2.4	選択	3後		○			○			◎	
		230	生理検査学	9	9	選択	3通					○			◎	
		530	生理検査学実習	1	1	選択	3通					○			◎	
		240	検査学演習	0.5	0.5	選択	4前								◎	
		540	臨地実習	1	3	選択	4通	○	○	○	○				◎	
実習科目	A群	540	臨地実習	2	8	選択	4通	○	○	○	○				◎	
		518	情報科学実習	1	1	必修	1前					◎			◎	
		518	基礎薬科学実習	1.5	1.5	必修	1後					○		◎	◎	
		528	分析化学・製剤学実習	1	1	必修	2前		○			○		◎	◎	
		528	有機化学・生薬学実習	1.5	1.5	必修	2通		○			○		◎	◎	
		528	免疫・分子生物学実習	1.5	1.5	必修	2後		○			○		◎	◎	
		538	衛生化学・放射化学実習	1.5	1.5	必修	3前		○			○		◎	◎	
538	薬効薬物動態解析実習	1.5	1.5	必修	3前		○			○		◎	◎			
541	卒業研究	12	12	必修	3~4通	○	◎			◎		◎	◎	◎		

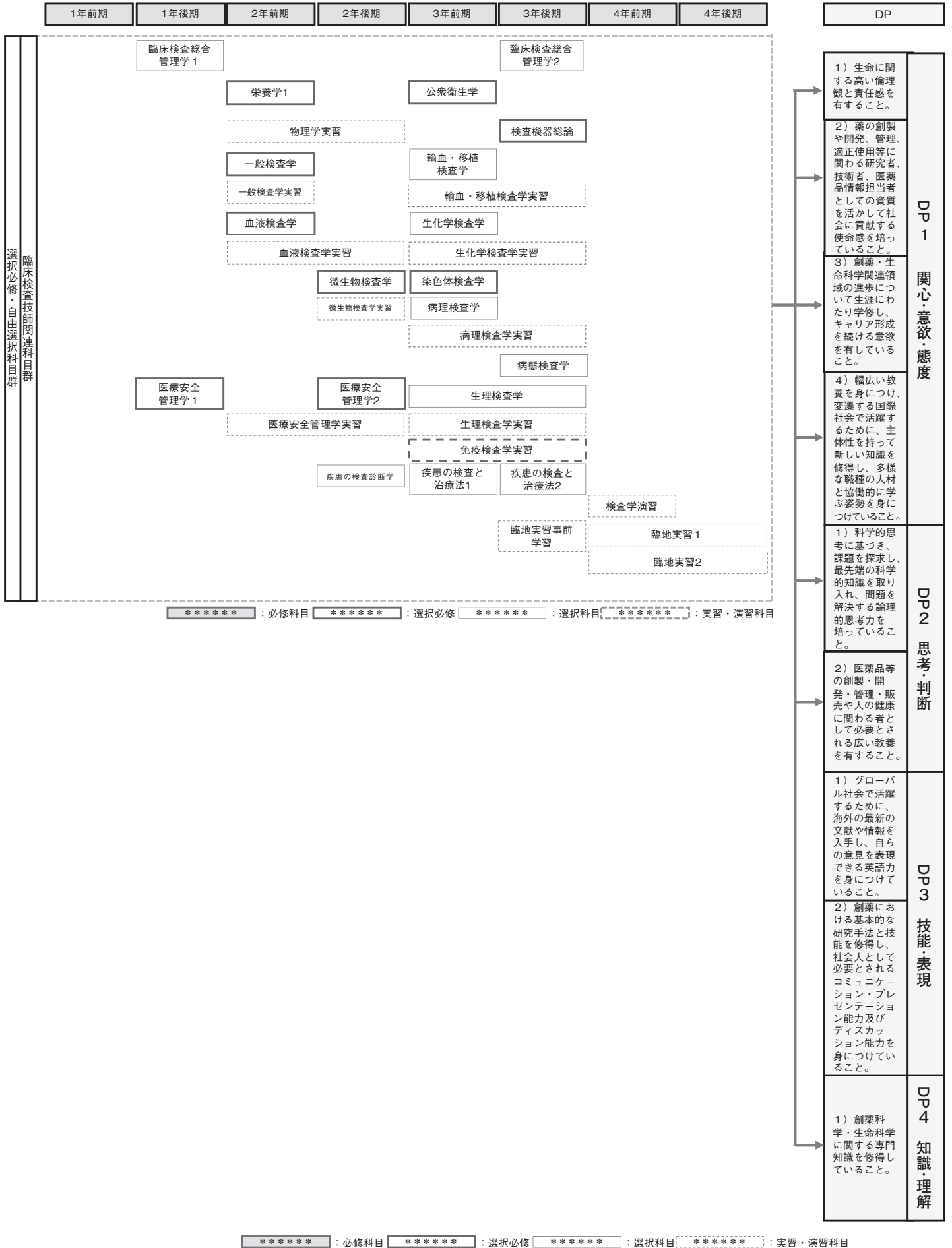
科目コード: A A A
| | |
区分 学年 レベル

薬学部 創薬科学科 カリキュラムツリー(令和8年度以降入学生)



***** : 必修科目 ***** : 選択必修 ***** : 選択科目 ***** : 実習・演習科目

薬学部 創薬科学科 カリキュラムツリー(令和8年度以降入学生)



Ⅲ 薬学部の学修

1 年間行事予定

頭書に示した「薬学部学年暦」は、年間の行事予定を示したもので、特別の事情がない限り予定どおり行われます。

行事の詳細については、決定次第随時通知しますので、常に UNIVERSAL PASSPORT 等で確認してください。

2 授業科目の構成

授業科目は、共通教養科目・外国語科目・専門科目に大別されます。

3 単 位 制

本学における教育課程は単位制を採用しています。薬学部では単位制と学年制を併用しています。

単位は、授業科目の性質によって次のとおり定めています。(いずれの科目も1時限を制度上2時間として計算する。)

(1) 共通教養科目

毎週1時限の授業を前期(15週)又は後期(15週)で2単位[ただし、生涯スポーツは1単位]

(2) 外国語科目

毎週1時限の授業を前期(15週)又は後期(15週)で1単位(毎週2時限の場合は2単位)

(3) 専門科目

毎週1時限の授業を前期(15週)又は後期(15週)で2単位

(4) 演習・実習科目

前期又は後期に30時間実施で1単位

4 科目の履修及び履修登録

(1) 科目の履修

ア 科目の履修は、履修計画・履修登録・授業出席・試験の過程を経て合格点を得た場合に単位が認定されます。

イ 履修は、当該年次に配当された科目を履修する「通常履修」と、過年度において修得できなかった科目を再度履修する「再履修」とに分けられます。

ウ 留年をして当該年次配当科目を受講する場合は、「再履修」ではなく、「通常履修」となります。

エ 未修得科目を残したまま進級すると、当該年次配当科目の「通常履修」と修得が必要な下級年次配当科目の「再履修」が時間割上重複することが多いので、当該年次に必ず修得してください。

オ 創薬科学科生の臨床検査技師国家試験受験資格取得には、指定された科目を履修する必要があります。詳細についてはガイダンスで説明します。

(2) 履修登録

ア 各年次の初めに履修すべき科目を自分で決め、所定の手続きにより履修の登録をしなければなりません。

イ 登録することにより、その科目を履修することができます。したがって、各年度初めの指定期間内に行われる履修登録は、非常に重要な手続きのため、定められた期間内に本人がこれを行わなければなりません。

万一期間内にこの手続きを怠った場合は、その年度の履修は一切認められなくなります。

ウ 履修登録は、各自の責任において行い、正当な理由なく履修を放棄(長期欠席・受験放棄など)す

ることのないよう努めなければなりません。

エ 履修登録の期日及び詳細については、別途通知します。

オ 指定期間外の履修科目の追加・変更・取消は認められません。

カ 履修登録をしなかった科目については、たとえ受講や受験をしたとしても単位の認定を受けることはできません。

キ 履修科目を決める場合の注意事項

(ア) 重複登録（履修）の禁止

同一曜日で同一時間に2科目以上を重複して登録（履修）することはできません。

(イ) 修得科目の履修の禁止

前年度までに履修し、単位を修得した科目を、再度登録（履修）することはできません。

(ウ) 必修科目の履修

必修科目は、指定された年次において必ず履修登録を行い、単位を修得しなければなりません。

修得できなかった場合は、原則として翌年度に再履修しなければなりません。

(エ) 履修科目数の上限（CAP制）

履修できる科目数には、以下のとおり制限があります。

各学年における最大履修科目数（実習・演習科目群、実践科目、自由選択科目、教職科目を除く）は、以下のとおりとします。ただし、成績がすぐれた学生については、例外措置として1年次後期～3年次後期の履修科目数に上限を設けません。（GPA制度を参照）

（通年科目は前期・後期のどちらにも1科目として計上されます。）

学 年		1	2	3	4	5	6
医療薬学科	前期	18	23	17	12	5	10
	後期	18	23	13	6	5	4
創薬科学科	前期	19	18	15	8		
	後期	20	19	11	5		

ク 履修登録後、学部が定めた期間に履修取り下げをすることができます。（GPA制度を参照）

ケ 復学後の通年科目の履修

通年科目を半期のみ履修して休学した場合、当該科目担当教員が履修済み期間の学修状況に問題がなく有効と認めたときは、復学後に未履修の期間からの履修を認めることができます。

コ その他の注意

留年をした場合は、原則として入学年度の履修規程が適用されます。

5 授 業

(1) 授業を受ける心構え

大学での学修は学生個人がそれぞれの個性と志向に応じて勉学の目標を定め、各自の学修方針に基づいて履修登録をした科目を受講します。その際単位制の本質から、単に授業に出席するだけでなく、毎時間の授業について自主的な学習が必要です。

授業中は私語をせず、携帯電話・スマートフォン等をマナーモードにしておく等、十分注意して、各自責任をもって受講してください。

(2) 授業時間（1時限：90分）

第1時限目	第2時限目	第3時限目	第4時限目	第5時限目
9：00～10：30	10：45～12：15	13：15～14：45	15：00～16：30	16：45～18：15

(3) 補講・集中講義

ア 補講

休講となった講義及び所定時間数に達しない科目については、土曜日又は同一期内の可能な時間に補充講義を行います。

イ 集中講義

科目によっては、ある一定期間に集中して講義を行います。

(4) 授業形態

本学では様々な形態で授業を行います。代表的な授業形態は以下の通りです。

ア 対面授業

・ 教員が学生に対し、同じ空間（教室等）、同じ時間で授業を実施する形態です。

イ メディア授業

・ 同時オンライン授業：会議アプリ等を活用し、Web を介して自宅や教室以外で時間割に即して授業を受ける形態です。

・ オンデマンド授業：事前に教員が録画した授業を、時間割にとらわれず授業担当教員が定めた期間に視聴する形態です。

イの授業形態で修得した単位数は、**60 単位を上限として卒業に必要な単位として算定することができます。**後述の 3. 卒業要件も確認しながら、**メディア授業の単位修得が 60 単位を越えないように注意してください。**

大規模災害など、非常事態が発生した場合には特例措置をとることがあります。その際は大学から改めてお知らせします。

また、アとイを組み合わせた授業もあり、組み合わせにより対面授業またはメディア授業のどちらかに分類されます。シラバスの「授業形態」に記載していますので、授業内容とともにこの情報も参考にして履修登録を行ってください。

※アとイを組み合わせた場合の対面授業の定義

授業回数の半数以上が「対面授業」として設定されている場合

⇒ 対面授業と定義します

繰り返しになりますが、メディア授業は卒業に必要な単位数に上限があります。卒業にも影響する重要な内容ですので、対面授業とバランスを取りながらメディア授業を履修するように心がけてください。

(5) 不正行為

薬学部では次のような行為は不正行為になり、薬学部における不正行為に関する内規によって処分されます。

ア 授業・実習における以下の行為

・ 出欠を偽ったり、妨害すること

・ オンライン講義の ID・PW および授業に関連する資料等を、許可なく第三者に供与あるいは入手したり、ネット上で公開すること

イ 課題等における以下の行為

・ 剽窃や盗用等の行為を行ったり、協力すること

・ 故意にレポートを写させること

- 他の者に代筆させたり、代筆すること
- 許可なくインターネット上の翻訳サイトを利用すること
- 代筆業等を利用すること

6 試 験

試験には、定期試験・追試験・再試験・再々試験・中間試験があります。いずれの試験も授業に3分の2以上出席し、受講した者に受験資格が認められます。

(1) 定期試験

ア 定期試験とは、前期末（7月下旬～8月上旬）と後期末（1月下旬～2月上旬）に行う試験をいいます。

イ 定期試験時間割は、試験開始の2週間前までに通知します。通知後も変更されることがありますので、試験日、時間、教室等を試験前に再度確認するよう心掛けてください。

ウ 定期試験時間（1時限：60分）

第1時限目	第2時限目	第3時限目	第4時限目	第5時限目
9：30～10：30	11：00～12：00	13：30～14：30	15：00～16：00	16：45～17：45

(2) 追試験

ア 追試験とは、定期試験及び定期試験に準ずる試験を「正当な理由により受験できなかった」と教授会で認められた場合に限り後日実施する試験をいいます。追試験は、当該科目の再試験と同時に実施し、原則として、追試験の再試験は行いません。

イ 追試験の受験申請は、当該試験最終欠席日を含め3日以内に UNIVERSAL PASSPORT より必要事項を入力し、診断書又は正当な理由を確認できる証明書等を添付し、申請手続きを行うことができます。（期限までに申し出がない場合は、手続き及び受験はできません。）

(3) 再試験（専門科目及び共通教養科目の学部基礎科目）

ア 再試験とは、専門科目、学部基礎科目及び自由選択科目の単位が修得できなかった場合に、試験の機会を再度与えて行う試験をいいます。再試験の実施時期は当該年次配当の前期末終了科目は8月下旬～9月中旬、後期末終了科目は2月上旬～下旬に実施します。原則として、再試験の追試験は行いません。

イ 再試験受験資格は、定期試験を受験し、その成績が**30点以上60点未満**の者に限り与えられます。

ウ 再試験における受験科目数は、**前期及び後期各5科目を限度**とします。

エ 再試験を希望するときは、UNIVERSAL PASSPORT より必要事項を入力し、指定された日時までに受験料を納付し、手続きを完了してください。（期限までに手続きが完了しない場合は受験できません。）

ただし、実習科目及び一部の演習科目は再試験を行いません。

(4) 再々試験

進級した者で、その前年に受講・受験（定期試験）したが、単位を修得できなかった科目（下級年次配当科目）について、再度、1回のみ機会を与えて試験（再々試験）を行う制度があります。申請方法や時期については UNIVERSAL PASSPORT からの案内を確認してください。

※当該年次科目の時間割と重複し、再履修することができない科目に限ります。

※実施時期は、当該科目（下級年次配当）の定期試験実施時とします。

(5) 中間試験及び確認演習は、科目の担当者が学期の途中に必要なに応じて行う試験及び演習をいいます。欠席日を含め2日以内に科目担当者に申し出れば、追試験を行う場合があります。

7 受験心得

試験は、単位修得の関門であり、日頃の学業の成果を発揮するための機会です。真剣に臨んでください。受験に当たっては、下記の注意事項を熟読のうえ、周到な準備と厳正な態度で試験に臨むことが肝要です。

(1) 一般事項

- ア 指定された座席で受験すること。
- イ 学生証は机上の通路側に置くこと。学生証を携帯しないものは受験できない。この学生証は、近畿大学が交付した学生証のみをいい、その他の身分証明書等によっては受験できないので注意すること。
- ウ 学生証を忘れた場合は、直ちに薬学部学生センターで「仮学生証」の発行を得て受験すること。仮学生証は使用後当日中に必ず返却しなければならない。未返却の場合は仮学生証を用いて受験した科目は無効となる。
- エ 体調不良等、特別な事情がない限り試験中の入退室はできない。
- オ 試験開始 20 分以後の入室はできない。なお、大学に登録されてる公共交通機関を利用の上、試験開始後 20 分以上遅刻した者のうち、交通事故その他やむを得ない事情があり、その事実を証明できる書類を提出した者に限り所定の手続きを経て、追試験受験資格を認めることがあります。
- カ 答案用紙に学籍番号・氏名が記入されていないと無効となる。
- キ 答案用紙は原則として再配布しない。また、答案用紙は試験場より持ち出してはならない。
- ク 答案用紙は監督者が指示する方法に従って提出し、答案回収が完了するまで静かに待機する。
- ケ 試験場における行動については監督者の指示に従うこと。
- コ 鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・時計（時計機能だけのもの）・学生証以外の物は、カバン等に入れ、カバンの封をし、指示された場所に置く。ただし当該試験において参照・使用を可とする物品についてはこの限りでない。
- サ 腕時計の利用は認めるが、必ず腕から外して机上に置き、試験中に触れてはならない。
- シ 携帯電話・スマートフォン・PHS・電子辞書・ウェアラブル端末等の携帯は認めない。またそれらの電源を必ず切ってカバン等に入れること。
- ス 帽子、コートやジャンパー、膝掛類を着用したまま受験しないこと。

(2) 不正行為

薬学部では次のような行為は不正行為となり、学則第四十一条によって処分されます。

また、その不正行為が摘発された時から、その定期試験期間中の受験資格は剥奪され、受験していた科目はすべて無効になります。

- ア 教科書、参考書、ノート、カンニングペーパー、携帯機器またはこれに類するものを盗み見ること。ただし当該試験において参照を可と指定された物品についてはこの限りでない。
- イ 他人の答案を盗み見ること、並びに、答案を他人の窃用に供する意図で他人の閲覧できる状態に置くこと。
- ウ 試験中に他人の物品を貸借すること。
- エ 試験に関することを机などに書き込んでおいたり、カンニングペーパー・携帯機器またはこれに類するものなどを所持すること。
- オ 本人に代わって他の者が受験すること。
- カ その他、試験の公正を害する行為をすること。

8 成績評価

- (1) 成績は100点満点で評価され、60点以上が合格となります。
- (2) 成績評価は、秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）で表示されます。なお、科目によっては、「合格」又は「不合格」によって表示される場合があります。
成績証明書については、秀・優・良・可を用いて表記し、成績通知については実点で表記されます。
- (3) 各講義科目の単位を取得するには、講義回数の3分の2以上の出席が必要です。また実習や演習科目では原則すべて出席しなければ単位が認定されません。
- (4) 再試験・再々試験の評価は60点満点とします。
- (5) 一度合格した科目の評価を取り消して、再び当該科目を履修することは認められません。
- (6) 修得した科目（単位）の成績評価は、UNIVERSAL PASSPORTより閲覧できます。過去に修得した科目の成績がすべて記載されています。
- (7) 席次は秀・優・良・可の評価がついた「単位修得済み」の科目の得点をもとに算出されます。「不可」又は「不受」の科目は対象となりません。
- (8) 不合格になった科目で修得が必要なものは、原則として、翌年度に再履修しなければなりません。
- (9) 成績について不審な点がある場合は、学生センターから指定された期間内にUNIVERSAL PASSPORTより照会手続きを行ってください。

9 成績通知

学生・保護者へはUNIVERSAL PASSPORTにて成績を通知します。

また教育指導の徹底のため、必要な場合にはアドバイザー教員も担当学生の成績を参照します。

10 GPA (Grade Point Average) 制度について

近畿大学では、100点満点の成績評価に対応させて、成績評価の指標としてGPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を施行しています。GPAとは、100点満点の実点を5段階のGPに置き換え、その科目の単位数と関連させてGPの平均値を算出した、最高点4点から最低点0点までの数値です。

GPA制度の意義は、GPAやGPによって自分の学修の全体的な達成度合いを簡便に測ることができる点にあります。GPAを意識することで、履修計画や学修状況を反省し、より実効性のある勉学に取り組むことができるのです。

GPAは欧米の大学で広く採用されている評価方法であり、日本の大学のグローバル化に対応する制度です。すなわち、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職などの際に幅広く通用する国際標準の成績評価制度であり、拡大するグローバル社会において必要かつ有効な制度です。

(1) GPA値の計算方法

GPAは以下の数値と計算式で算出されます。

実点評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	不受験
5段階評価	秀	優	良	可	不可	不受
GP グレード・ポイント	4	3	2	1	0	0

$$\text{GPA} = \frac{\{(\text{履修登録科目の単位数}) \times (\text{履修登録科目のGP})\} \text{の総和}}{\text{総履修登録単位数}}$$

※ GPA 算出の具体例

科目	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
単位数	1	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2
実点	83	65	82	58	92	74	80	68	90	不受	85
GP	3	1	3	0	4	2	3	1	4	0	3

$$\text{GPA} = \frac{1 \times 3 + 2 \times 1 + 1 \times 3 + 2 \times 0 + 2 \times 4 + 2 \times 2 + 2 \times 3 + 1 \times 1 + 2 \times 4 + 2 \times 0 + 2 \times 3}{1 + 2 + 1 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 1 + 2 + 2 + 2}$$

$$= \frac{41}{19} = 2.16 \text{ (小数第3位を四捨五入)}$$

- ☞ 実点は当該科目の点数を表します。
- ☞ GPA は小数第3位を四捨五入して、表記は少数第2位までとします。
- ☞ GPA の最高点は4点、最低点は0点になります。
- ☞ GPA の計算式には、GP 対象外科目として、近大ゼミ、自由選択科目、卒業研究などの認定科目（「合」「不合」で成績評価を行う実点で成績を出さない科目）は含まれません。
- ☞ 不可になった科目または不受験の科目を再履修して単位を取得した場合、通算の GPA には過去の GP = 0 は反映されず、再履修の GPA のみが算入されます。
ただし、再履修をしても、不可、不受験であった場合は、通算 GPA には過去の GP = 0 と再履修時の GP = 0 の両方が算入されます。
- ☞ 進級要件、卒業要件には GPA を適用しません。

(2) 履修取り下げについて

履修登録後、学部が定めた期間にアドバイザー教員との面談を経て、学生本人から申し出があった科目に関してのみ履修の取り下げを認めます。

ただし、取り下げ期間中の履修科目の変更や追加は認められません。詳しい手続き方法は、別途お知らせします。

(3) GPA 制度の活用

GPA の意義は、その値を自分の履修計画と学修状況を測る指標として活用する点にあります。以下のような点に留意して、GPA 値を高めることに努めてください。

- ア 履修登録科目について熟慮し、登録科目についてはしっかりと勉強をして試験において不可をとらないこと。
- イ 不受験科目をなくすこと。そのために、履修放棄をする科目については「履修取り下げ期間」中に必ず「履修取り下げ」を行うこと。
- ウ 成績通知書の GPA 値あるいは各科目の GP 値を確認して自分の履修計画、学修状況を反省し、克服すべき課題を自覚すること。
- エ GPA 値が不良の場合はアドバイザー等による面談を行います。

11 単位認定制度（共通教養科目・外国語科目）

- (1) 近畿大学薬学部入学以前に、他大学で修得した科目のうち、共通教養科目の一部及び外国語科目については、審査のうえ、単位を認定する制度があります。
- (2) 「TOEIC[®] Listening & Reading Test」の公開テストまたは IP テスト（ペーパー）を受験し、単位認定を申請する年度の直前の年度中に取得したスコアで 700 点以上を有する者は、「TOEIC 1・2」の配当学年（2年生）以上の学年の履修登録期間中に、薬学部学生センター窓口で申請することができます。ただし、IP テスト（オンライン）受験のスコアは無効とします。詳細は p.63 ~を確認してください。

- (3) 近畿大学グローバルエデュケーションセンター主催の「海外英語研修」に参加、又は「交換留学生合同科目」の受講により、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て薬学部の共通教養科目・外国語科目の単位を認定する制度があります。対象科目・認定条件は p.61 を確認してください。
- (4) 単位認定を希望するときは、指定された期間に、必要書類（成績証明書等）を添えて、薬学部学生センターで所定の手続きを完了してください。

12 欠席の取り扱い

(1) 講義の欠席

① 適用範囲、証明書類及び日数

欠 席 事 由	必要証明書类等	認可日数
a 傷病等による入院又は学校保健安全法施行規則第 18 条に定めた学校感染症（別表*）	医師診断書** または 学校感染症治療証明書***	1 教科 3 日まで****
b 天災・交通機関等の事故	事故証明書	当該日のみ
c 申請者の父母、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子女が危篤状態の場合 （申請者の保護者が前記以外の場合はこれに準ずる）	原則として保護者の証明書	2 日
d 申請者の父母、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子女が死亡の場合 （申請者の保護者が前記以外の場合はこれに準ずる）	死亡通知等の関係書面もしくは保護者の証明書	3 日
e 前記 c 又は d に該当する場で、危篤に落ち込んだ者又は死亡者の居住地が遠隔地のため、又は特別の事情からなお多くの日数を要する場合はその旨学部長に申請し、許可を得れば公認欠席日数を延長することができる。	原則として保護者の証明書	延長 2 日以内
f 大学院入学試験	当該大学院の受験票等日時を証明できるもの	年間 3 日以内
g 就職試験および内定式（インターンシップは含まない）	日時等を証明できるもの	許可日
h その他 自治会活動等特別な事情があり、学部長の許可を得た場合	その事由を証明できる書類	5 日

* 別表

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、バスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、特定鳥インフルエンザ（H5N1、H7N9）
第二種	インフルエンザ、百日咳せき、麻しん（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん、水痘（みずぼうそう）、咽頭結膜熱、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

第三種 その他の感染症の例（条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる感染症）：溶連菌感染症、手足口病、ウイルス性肝炎、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑（りんご病）、マイコプラズマ感染症、流行性嘔吐下痢症（ロタウイルス・ノロウイルス）などの感染症または病原性の強い疾病については、病因が明記された診断書を添えて申請することで、担当者協議の上で公認欠席を認めることがある。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第六条第七項から第九項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症は、前項の規定にかかわらず、第一種の感染症とみなします

** 医師診断書には入院または出席停止期間の開始日と終了日が必ず明記されていること。

*** 近畿大学 メディカルサポートセンター HP「学校感染症について」より書式を印刷し、感染症の治療後に医療機関で作成依頼すること。

近畿大学 メディカルサポートセンター HP URL <https://www.kindai.ac.jp/health/about/epidemic.html>

**** 入院については診断書に記載の期間、学校伝染病については学校保健安全法施行規則第 19 条に定める出席停止期間に従うこと。



② 申請要領

ア 申請者は、原則として最終欠席日を含めて5日以内（日曜・祝日を除く）に近畿大学全学用 Slack（以下、Slack）の「#1_薬学部お知らせチャンネル」内欠席届ワークフローより必要事項を入力し、診断書や正当な理由を確認できる証明書等を添付し、申請手続きを行うことができる。ただし、欠席期間終了後に申請を行うこと。最終欠席日以前に申請されたものは否認するので、改めて最終欠席日以降に再申請すること。

イ 申請後、1週間程度で Slack からの「申請結果通知」が届くので、添付された「欠席届処理完了書 (pdf)」を自身で速やかに各科目担当教員へメールで提出する。

ウ 物理化学生物学演習1・2、総合演習1・2、総合薬学演習の欠席は、Moodle で指定された方法で速やかに各科目担当者へ報告する。

③ 公認欠席日数の上限

上記の「欠席届」により公認欠席と認められても、その欠席日数は1教科につき講義回数の5分の1を限度とする。ただし、g 就職試験は除く。なお、出席率の算出には、全講義回数から公認欠席日数を差し引かれるので、余裕を持って出席しておくこと。

(2) 試験の欠席

① 適用範囲及び証明書類

前記「(1) 講義の欠席」①の欠席事由 a～h 及びその他の傷病により医師が定期試験の受験を困難と判断した場合は、追試験の対象とするので、欠席事由・期間が明記された診断書を添えて下記②の申請要領に従って申請すること。

また、上記事由であっても再試験及び再々試験を欠席した場合は、追試験の対象外となるため、(次年度に)再履修すること。

② 申請要領

ア 申請者は、原則として定期試験の最終欠席日を含めて3日以内（日曜・祝日を除く）に、UNIVERSAL PASSPORT により必要事項を入力し、診断書または正当な理由を確認できる証明書等を添付し、申請手続きを行うものとする。ただし、追試験の申請には申請受付期間が定められているため、最終欠席日を含めた3日以内であっても申請受付期間を超過する場合には、申請を認めない。また、出席日を挟んで2日以上欠席し、当該欠席科目について追試験の受験を希望する場合は、欠席日ごとにそれぞれ手続きを要するものとする。

イ 申請手続きを終えた者は、所定の期間内に証明書発行サービスより受験料（1科目につき1,000円）を納付する。ただし、納付期限内に入金しなかった場合は、受験は認めない。なお、証明書発行サービスで入金された受験料は、原則返金対応しない。

③ 追試験受験

上記のすべてを完了した者は、指定された日時・方法にて受験する。なお、欠席事由などを審議の上で不適合であると判断された場合、入金後であっても追試験受験を認可しないことがある。

<近畿大学 Slack 利用ガイド>



<証明書発行サービス>



13 教員免許

中学校または高等学校の理科教員免許を取得することができます。詳細は大学院・共通教育学生センターに問い合わせてください。

14 レポートにおける剽窃（盗用）行為（plagiarism）について

「剽窃」とは他人の著作から全部または部分的に文章、図表、語句、話の筋、思想などを盗み、自作の中に自分のものとして用いることです。友人が書いたレポート等を写す行為は剽窃ですし、ネット上の情報を自分のレポートに貼り付けてしまう行為、いわゆる「コピペ」も剽窃です。他人のテキストを自分で入力しても剽窃になります。剽窃は倫理に反することであり、著作権を侵害するなど法に触れる場合もあります。剽窃は学生として絶対に行ってはいけない不正行為なのです。

近畿大学では、剽窃に対してカンニングと同様に厳正に対処します。米国の大学等では cheating（カンニング）と同じ扱いになり、剽窃を行ったレポートが判明すると、即座に退学させられる場合があります。ただ、処罰対象になるからやってはいけない、ということではありません。あくまで、剽窃は倫理に反する行為、不正行為だということです。

一方で、レポートを作成するときには、様々な文献を引用することがあります。様々な文献を引用することは、レポートを作成する上で重要なことです。「引用」と「剽窃・盗用」は全く異なります。文献等を引用する際に大事なことは、「自分の文章と他人の文章をレポートの中で明確に区別する」ということです。なお、引用は明確に示すこと（明瞭区別性）はもちろん、引用が従であること（主従関係）、出典を明示することなど厳格なルールが存在します。引用ルールの詳細については、近畿大学中央図書館学修サポート (https://www.clib.kindai.ac.jp/search/study_support.html) の「レポートの書き方」や「ダメなコピペ・パクリ≡「剽窃（ひょうせつ）」について」などを参照してください。

レポートに書いた文章は、それを書いた人の大事な自己表現です。レポートや試験でも自分の文章に誇りを持ち、剽窃などせず、自分自身の個性を存分に発揮してください。

15 生成系 AI(ChatGPT、BingAI など)の利活用について

ChatGPT に代表される生成系 AI(人工知能)は日進月歩の進化を遂げています。この生成系 AI は非常に便利なツールである一方、不用意に利用すると危険な面も多々あります。近畿大学では、学生が生成系 AI を利用することに対して、下記のとおり考え方を示しています。

「参考・相談」は可 / 「依存」は不可

生成系 AI は自然な対話が可能なツールであり、授業で分からないこと、知りたいことを友人に相談する感覚で「参考」にすることが可能です。

生成系 AI は機械学習により得られた情報を元に違和感のない文章を生成します。上手く利用すると様々な情報を得ることができそうですが、機械学習されたもの全てが正しいとは言えず、誤った文章が提示されることも少なくありません。また、質問(プロンプト)の構成によっても生成される文章の内容が変わります。これは SNS やインターネットの情報にも同じことが言えますが、生成系 AI の出力(文章)を鵜呑みにし、それに「依存」することは極めて危険です。

人との対話において、他人の意見が本当に正しいかどうかを判断するのは自分自身です。相手が生成系 AI の場合も同様で、生成された文章を鵜呑みにするのではなく、文献や公式資料など自ら根拠を確認し、表現することを必須とします。このような検証作業は、文章力の向上だけでなく、批判的な思考力や情報分析能力の育成に繋がります。

未公開データ(いわゆる生データ)や個人情報等を含めた質問は禁止

生成系 AI に入力した情報については、他の利用者に公開されることもあります。特に研究活動などで得た未公開データ(いわゆる生データ)や、自分もしくは他者の個人情報、プライバシー情報や機密情報、あるいは著作物等を含めて質問することは禁止します。

生成系 AI に入力した情報が、他の利用者へ出力されることは十分に起こり得ます。予期しない情報漏洩や著作権侵害の危険性が常に潜んでいるため、データを含めた生成系 AI の活用は、外部公開しても構わない情報に限定してください。ひとたび個人情報等が外部に漏れた場合、被害を救済することは困難であり、また他者の権利を侵害する情報漏洩の場合には損害賠償等も起こり得ることを留意してください。

16 近畿大学データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム

「近畿大学データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム」は、データ駆動型社会における素養となるデータサイエンス（Data Science, データ科学）とAI（Artificial Intelligence, 人工知能）に関する基礎的な知識と技能を備えた人材を育成することを目的とした、リテラシーレベルの教育プログラムです。来るデータ駆動型社会に向けて進展が期待されているデータサイエンスとAIについて、以下の基礎的な知識と技能を修得することが本プログラムの到達目標です。

- ・データサイエンスやAIの現状、概念、方法及びデータの取り扱いや留意点についての基礎的な知識
- ・データの収集、計算、操作、分析を行うツールの初歩的な操作

1) プログラムの履修

修了要件となっている科目の履修登録を行ってください。本プログラムを受講するため別途申し込みを行う必要はありません。

2) 修了要件

以下の科目を修得すること

科目区分	共通教養科目	授業科目	データリテラシー入門
単位数	2	配当学年	1

Ⅳ 学修上の注意事項

1 出席の重要性

薬学部では、特に出席を重視します。講義・実習の出席のみならず、諸行事にも必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合は、教員に申し出し、必要に応じて所定の様式により欠席届を提出しなければなりません。詳細は、p.26「欠席の取り扱い」を確認してください。

原則として講義回数の3分の2以上の出席がなければ当該科目の試験を受ける資格および単位修得の資格がありません。

なお、実習・演習科目の単位修得については全出席が原則です。欠席した場合には実習担当者に相談し、必要に応じて診断書等の証明書を提示し、学生センターにて所定の手続きを行ってください。

ただし、単位取得に必要とされる出席回数は、科目により別途指示される場合がありますので注意してください。

2 提出期限の厳守

レポートその他学修に関する届等の提出期限は、厳守しなければ無効となります。

3 通知・案内の伝達方法

(1) 学生への通知は、「UNIVERSAL PASSPORT への掲載」および「Slack への掲載」によって行われますので、常に UNIVERSAL PASSPORT および Slack を見るよう心掛けてください。

通知を確認しないことによって、思わぬ不利を招くことがありますので、十分注意してください。

(2) 休講・補講等の講義情報は UNIVERSAL PASSPORT に掲載されるとともに、大学が付与したメールアドレス（学籍番号+アルファベット@kindai.ac.jp）にも配信されます。転送先（携帯電話・スマートフォンなどのメールアドレス）を設定するなど、常にメールを確認するよう心掛けてください。

4 クラス編成

科目によっては、その年次の学生をいくつかのクラスに分けることがあります。この場合は授業時間割表等により指示されます。

5 アドバイザー制度・学年相談員制度

薬学部では入学時に、全入学生を研究室、教育専門部門、臨床薬学部門及び薬学総合研究所の各教員に振り分けます。アドバイザー教員に学修上の問題や個人生活上の問題、その他何でも遠慮なく相談してください。

また薬学部では、大学生活やメンタルヘルスなど皆さんが抱える問題の相談窓口として相談員制度を設けました。悩みを抱えたままでは、学業や様々な課題に取り組むゆとりが生まれません。友達にもアドバイザーにも相談しづらい悩みを抱えておられる方は、積極的に利用してください。

学年毎に2名の相談員を配置していますので、気軽に相談してください。

1年生	深尾重喜良〈生化学（39号館11階）〉	fukao@phar.kindai.ac.jp
	大竹 裕子〈製剤学（39号館10階）〉	hotake@phar.kindai.ac.jp
2年生	山本佐知雄〈薬品分析学（38号館9階）〉	yamamoto@phar.kindai.ac.jp
	坪田 真帆〈病態薬理学（39号館9階）〉	maho@phar.kindai.ac.jp
3年生	緒方 文彦〈公衆衛生学（38号館9階）〉	ogata@phar.kindai.ac.jp
	高浦佳代子〈薬用資源学（39号館9階）〉	takaura@phar.kindai.ac.jp
4～6年生	西脇 敬二〈創薬分子設計学（38号館9階）〉	k-nishi@phar.kindai.ac.jp
	井上 知美〈臨床薬学部門（個別化薬物療法学分野）（39号館6階）〉	tinoue@phar.kindai.ac.jp

6 メディカルサポートセンター (KINDAI クリニック)

メディカルサポートセンター (KINDAI クリニック) では、みなさんの健康管理のために内科、外科、メンタルヘルス科 (予約制)、睡眠外来 (隔週・予約制) を中心とした保険診療、健康相談、応急手当、カウンセリング、健康診断などを行っています。当センターは11月ホール3階にあります。

身体の不調やいろいろな悩みが生じたときには気軽にご相談ください。健康相談、カウンセリングの結果、精密検査や専門的な治療が必要なときには医師やカウンセラーが適宜、医療機関への紹介も行っています。

内容	KINDAI クリニック 受付時間 TEL (06) 4307 - 3110	カウンセリング TEL (06) 4307 - 3076	保健室対応 応急手当 TEL (06) 4307 - 3075
月	午前 9:00 ~ 12:30 午後 14:15 ~ 16:30 内科	10:00 ~ 18:00 (予約制)	8:30 ~ 20:30
火			
水			
木			
金	午前 9:00 ~ 12:00 メンタルヘルス科 (予約制) 午後 14:15 ~ 16:30 外科 15:00 ~ 16:30 睡眠外来 (隔週・予約制)		
土		10:00 ~ 15:00 (予約制)	8:30 ~ 12:30

(曜日・時間帯は変更の可能性があります)

7 UNIPA マイステップについて

中長期的な視野を念頭において、当面の取り組みや課題を整理することで目的意識を維持し、学生生活を計画的に過ごすことができるよう、勉学・社会体験等の目標・実行計画を立て、その実施状況や到達等を検証するための指針です。アドバイザー教員との相談や指導を受ける際に活用してください。

8 定期健康診断

年度初めに行われる定期健康診断は、必ず受けなければなりません。疾病その他やむを得ない事由により、定期健康診断を受けることができなかった場合には、速やかにメディカルサポートセンター (11月ホール3階) に届け出て、指示を受けてください。

9 実習時の安全対策及び廃棄物処理

- (1) 入学時に配布する「安全要覧」を熟読のうえ、実習に臨んでください。万一事故が発生した時は、実習担当教員に速やかに連絡し、その指示に従ってください。
- (2) 実習及び研究を行う際には、安全メガネ及び白衣を着用するなど安全に留意してください。
- (3) 有害物質の廃棄についても、「安全要覧」に記載されていますが、不明な点については、実習担当者又は研究室の教員の指示を受けてください。

10 気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱い

暴風警報等が発表された場合及び台風や地震等により交通機関が運行停止となった場合、授業の取扱いについては、学内規程「気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱いについて」に基づき以下のとおりとします。ただし、居住されている地域の被災により避難指示 (緊急)・避難勧告が発表された場合や公共交通機関が運行停止等になり登校できない場合は、欠席による不利益がないよう配慮しますので、身の安全を最優先に考え、適切な行動をとってください。また、以下の事

例以外に特別な事態が生じた場合にも授業の短縮や休講となる場合があります。

特別警報又は暴風警報発表の場合

特別警報又は暴風警報が以下のいずれかの地域に発表された場合は次のとおり休講とします。ただし、特別警報が発表された場合は終日休講とします。また、特別警報又は暴風警報が授業時間中に発表された場合は、授業を中止して休講とします。

(1) 警報発表対象地域

大阪府：大阪市、北大阪（豊中市・池田市・吹田市・高槻市・茨木市・箕面市・摂津市・島本町・豊能町・能勢町）、東部大阪（東大阪市・守口市・枚方市・八尾市・寝屋川市・大東市・柏原市・門真市・四條畷市・交野市）、南河内（富田林市・河内長野市・松原市・羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村）、泉州（堺市・岸和田市・泉大津市・貝塚市・泉佐野市・和泉市・高石市・泉南市・阪南市・忠岡町・熊取町・田尻町・岬町）

兵庫県：阪神（神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・猪名川町）

奈良県：北西部（奈良市・大和高田市・大和郡山市・天理市・橿原市・桜井市・御所市・生駒市・香芝市・葛城市・平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・川西町・三宅町・田原本町・高取町・明日香村・上牧町・王寺町・広陵町・河合町）、五條・北部吉野（五條市北部・吉野町・大淀町・下市町）

京都府：京都・亀岡（京都市・亀岡市・向日市・長岡京市・大山崎町）、山城中部（宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・久御山町・井手町・宇治田原町）、山城南部（木津川市・笠置町・和束町・精華町・南山城村）

(2) 暴風警報解除時刻と授業開始時限

解除時刻	授業開始時限
6時00分時点で解除	1時限目から実施
10時00分時点で解除	3時限目から実施
13時00分時点で解除	6時限目から実施
13時00分時点で警報発表中	全時限休講

※6時00分時点で特別警報が発表されている場合は解除時刻にかかわらず終日休講

特別警報が発表された場合、該当地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、特別警報の種類は問わず、自身の判断により命を守るために最善と思われる行動をとってください。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。

交通機関の運行停止の場合

台風・地震等により以下に該当するいずれかの交通機関が運行停止となった場合、運行が再開された時刻により次のとおり休講とします。ただし、当該交通機関での事故等による一時的な運行停止は対象とならないので注意してください。また、交通機関の計画運休や運休見通し情報が発表された場合は、対象路線や運休期間等の発表内容に基づき、事前に休講とする場合があります。

(1) 対象交通機関

[台風・地震等の災害による運行停止]

- ① 近鉄「大阪線」（大阪上本町～大和八木間）、「奈良線」が同時に運行停止になった場合
- ② JR西日本（※参照）、南海（南海本線及び高野線）、阪急、阪神、京阪、大阪メトロのうち2以上の交通機関の全線が同時に運行停止になった場合

※ JR 西日本は大阪環状線、京都線（京都～大阪）、神戸線（大阪～姫路）、学研都市線（京橋～木津）、東西線（京橋～尼崎）、宝塚線（大阪～新三田）、ゆめ咲線（西九条～桜島）、大和路線（加茂～JR 難波）、阪和線（天王寺～和歌山）、おおさか東線（大阪～久宝寺）を対象とします。なお、JR 西日本のみで2以上の路線が運行停止となった場合は休講の対象となりません。

③ JR 阪和線全線及び南海本線全線が同時に運行停止になった場合

[ストライキによる運行停止]

① 近鉄が運行停止になった場合

② JR 西日本、南海、阪急、阪神、京阪、大阪メトロのうち2以上の交通機関が同時に運行停止になった場合

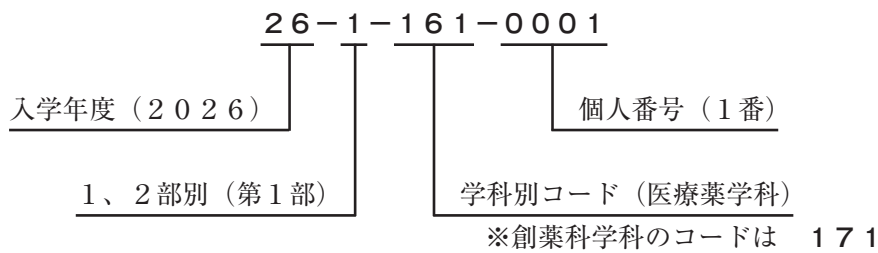
(2) 運転再開時刻と授業開始時限

運転再開時刻	授業開始時限
6時00分時点で再開	1時限目から実施
10時00分時点で再開	3時限目から実施
13時00分時点で再開	6時限目から実施
13時00分時点で運行停止中	全時限休講

V 学籍関係の概略

1 学籍番号

入学手続きが完了すると学籍番号（学生証に記載される番号）が付与されます。この番号（10桁）は本学薬学部学生として登録されたことを表し、受験または各種証明書発行願等にも、部別・学部・学科・学年・氏名とともに記入しなければなりません。



2 身上異動届

身上に変更事項があった場合は、直ちに近大 UNIPA から申請を行う必要があります。現住所の変更は速やかにしなければ、緊急連絡が必要な場合、思わぬ不利を招くこととなりますから注意してください。奨学金を受けている場合は学生部（奨学金窓口）にも必ず届け出てください。

（注）学生規程第10条

3 退学・再入学

(1) 病気その他、やむを得ない事由で退学する場合には、その理由を記し、研究室指導教員またはアドバイザー教員の面談後、保証人連署のうえ学生証を添付して薬学部学生センターに届け出なければなりません。詳細は薬学部学生センターに照会してください。

（注）学則第32条、学生規程第20条

(2) 退学した者が再入学を希望する場合は、退学となった学年度、翌学年度及び翌々学年度の所定の期間に出願すれば教授会で審議のうえ、許可される場合があります。

（注）学則第33条、学生規程第24条

4 休学・復学

(1) 病気その他、やむを得ない事由で休学する場合には、その理由を記し、研究室指導教員またはアドバイザー教員の面談後、保証人連署のうえ薬学部学生センターに届け出なければなりません。詳細は薬学部学生センターに照会してください。

（注）学則第30条、学生規程第18条

(2) 休学者が復学を希望する場合は、所定の期間内に、保証人連署で願い出れば教授会で審議のうえ、復学が許可されます。詳細は薬学部学生センターに照会してください。

（注）学則第31条、学生規程第23条

5 除籍・復籍

(1) 学費を納入期限までに納入しない場合は、除籍され学生の身分を失うことになります。

（注）学則第38条第3項、学生規程第21条

(2) 除籍された者が復籍（学籍の復帰）を希望するときは、所定の期間内に手続きをした場合、教授会で審議のうえ、復籍が許可される場合があります。詳細は薬学部学生センターに照会してください。

（注）学則第31条第2項、学生規程第22条

6 転学部・転学科

(1) 転学部について

本学に在籍し薬学部から他学部へ転学部を希望する場合、希望する学部が指定する条件を満たすことにより年度末に実施される転学部試験を受験することができます。合格すると、転学部が許可されます。詳細は希望する学部の学生センターにお問い合わせください。

(2) 転学科について

入学後に学科変更を希望する場合、1年次から2年次への進級時に3月上旬に実施される転学科試験を受験することができます。詳しくはアドバイザーや薬学部学生センターに相談してください。また、医療薬学科4年次以上で、病気等の事由により実務実習事前学習もしくは臨床薬学実務実習（病院・薬局実務実習）の履修に支障をきたすと判断され、創薬科学科での就学意欲のある学生は、指導教員や薬学部学生センターに相談してください（教授会の協議を経て転学科試験の受験を許可することがあります）。

(注) 学則第29条

VI 中央図書館案内

学習・研究にあたっては、中央図書館を大いに活用してください。

中央図書館は、中央館（10号館）・ビブリオシアター（5号館）と19号館図書室・A館図書室・B館図書室の3つの分室からなります。中央図書館を利用する際に、是非知っておいてほしい項目を下記に記載します。

利用の詳細については、中央図書館ホームページまたは中央図書館の各カウンターでお尋ねください。

1 開館時間（中央図書館）

開講期：（月～土曜日） 8：45～22：00 閉講期：（月～土曜日） 9：00～18：00

試験期：（月～土曜日） 8：30～22：00 日曜・休日開館日： 10：00～18：00

※館内へは**学生証**を使って入館してください。

※長期休暇期間や大学行事等により、休館又は閉館時間が異なりますので、ご利用の際は、中央図書館ホームページや公式Xにて最新の情報をご確認ください。

2 貸出冊数・期間

学生：10冊 15日以内

院生：20冊 1か月以内

※貸出の際には**学生証**が必要です。

※長期休暇期間、前期・後期定期試験期間中は、貸出冊数・期間を変更することがあります。

3 授業計画（Syllabus）参考文献について

「授業計画（Syllabus）」で教員が参考文献に指定した図書を配架しております。講義・実験・実習や定期試験等に活用してください。

4 各種講習会について（オーダーメイドによる随時開催など）

図書館では、より良いレポート・論文を作成するための情報収集法や、各種データベース・電子資料の使い方などを講習会形式でお教えします。どうぞご利用ください。

講習会の内容や申込についての詳細は、中央図書館ホームページなどでお知らせします。

5 電子資料の利用

学外からパソコン・スマートフォンで、電子ブック・電子ジャーナル・データベースなどを利用することができます。

中央図書館 URL

中央図書館 URL 中央図書館 HP <https://www.clib.kindai.ac.jp>

データベース学外利用 https://www.clib.kindai.ac.jp/search/db_vpn.html

蔵書検索システム（OPAC） <https://opac.clib.kindai.ac.jp>

中央図書館公式X @Kindai_Clib



中央図書館 HP

医療薬学科

医療薬学科の学修について.....	39
進級基準・卒業資格の要件.....	40
共通教養科目・外国語科目表.....	42
専門科目表.....	44
その他.....	47

医療薬学科の学修について

医療薬学科長

細見光一

①医療薬学科カリキュラムの目的

医学の進歩に伴い、医薬品使用の適正化のみならずレギュラトリーサイエンスを基盤とした医薬品の探索や臨床研究も含めて、薬学の社会的機能が高度化しています。将来、これらの高度化した内容に対応して実践できるようにするため、関連科目を年次進行に合わせてスパイラルに配置したカリキュラムを設定するとともに、単なる知識の習得だけでなく、SGD (Small Group Discussion)、PBL (Problem - Based Learning) を取り入れ、医療を実践するために必要な技能、態度の学修を重視し、考える力を養う事に重きを置いています。

②カリキュラムの内容

1、2年次には、薬剤師に求められる基本的な資質、すなわち豊かな人間性と医療人としての責任感、倫理観を学ぶため、教養科目、早期体験学習、近大ゼミ、そして専門教育への導入科目である学部基礎科目を設けています。1年次での早期体験学習は、病院薬剤部見学、人体臓器観察、地域薬局見学等はもちろんのこと、本学薬学部ならではの医薬連携プログラムとして、近畿大学病院での患者サポートを行う病棟体験学習も行われます。近大ゼミではSGDを取り入れ、薬剤師として必要な資質であるコミュニケーション能力、問題解決能力を養成しますので、積極的に参加してください。新薬の奏功率、副作用情報の収集、治験等において、薬剤師の職能に英語の必要性が増加していますので、ネイティブによる英語科目も配置しています。

3、4年次では、特に医療薬学に重点を置いた専門教育を行い、将来薬剤師として必要とされる実践的な科目を学修します。3年次後期から、全学生が研究室・部門に所属して卒業研究を行い、将来の医療の発展に貢献できるリサーチマインド、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等を身につけます。また、総合大学の強みとして、研究能力を飛躍的に向上させる環境も整っています。4年次前半に、「多職種連携学習」として医学部学生とのPBL等が実施され、チーム医療の根幹を勉強します。そして4年次後半に、臨床薬学実務実習を行うための基本の薬学知識を問われるCBT (Computer - Based Testing) 及び臨床の態度や技能について評価されるOSCE (Objective Structured Clinical Examination) といった共用試験に合格する必要があります。これらに合格すると、4年次後期から、臨床薬学実務実習が22週間実施され、実務経験を積むこととなります。さらに、希望者は8週間のアドバンスト実習を行うことにより、実践的な能力の醸成を行います。6年次には多職種連携を身に付けるための「がん治療学医薬看連携講義」を、特徴ある科目として開講しています。

③学生諸君に気を付けてほしい事

1、2年次を中心に実施される薬学基礎科目(物理・化学・生物系科目)は、医療系科目の土台となるばかりか、薬剤師国家試験にも幅広く出題されますので、試験には、余裕のあるスケジュールを立てて学修するよう心がけてください。大学での勉強は、高校時代の勉強方法とは異なります。特に1年生の諸君は、アドバイザーとよく相談し、予習と復習の習慣を身につけるようにしてください。また、2年次以降の専門科目のほとんどが、薬剤師に必須の知識となりますので、単なる記憶に頼るのではなく、理解することが重要です。

入学年度で進級基準、履修科目が異なりますので、内容を良く理解しておいてください。疑問点があれば必ずアドバイザーや薬学部学生センターに相談してください。

最後に、薬のスペシャリストとして、人の命と健康を守る事を通して社会に貢献する薬剤師になるため医療薬学科に入学した事を、その薬剤師になるための知識・技能・態度を学修している事を忘れないで、充実した大学生活を送って頂ければと思います。

進級基準・卒業資格の要件及び授業科目【医療薬学科】

【令和8年度以降入学生適用カリキュラム】

進級基準

薬学部医療薬学科では各年次ごとに進級のための基準が設けられています。この基準どおりの単位を修得できなければ留年となります。

各年次への進級基準（必要単位数）は次のとおりです。

- (1) 第1年次から第2年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。

ア 共通教養科目（近大ゼミ・学部基礎科目を除く）から	10 単位
ただし、人間性・社会性科目群より2単位以上、課題設定・問題解決科目群より2単位以上、地域性・国際性科目群及びスポーツ表現活動科目群より2単位以上を含む	
イ 共通教養科目（近大ゼミ）	2 単位
ウ 共通教養科目（学部基礎科目）から	6 単位
エ 外国語科目（英語）から	4 単位
オ 外国語科目（英語及び初修外国語）から	1 単位
カ 専門科目のⅠ群・Ⅱ群から	14 単位
キ 実習・演習から	3.5 単位

- (2) 第2年次から第3年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。

ア 共通教養科目（学部基礎科目）から	8 単位
イ 外国語科目（英語）から	8 単位
ウ 外国語科目（英語及び初修外国語）から	4 単位
エ 2年次開講専門科目のⅠ群・Ⅱ群から	28 単位
ただし、必修科目2単位以上を含む	
オ 専門英語から	3 単位
カ 実習・演習から	8 単位
キ 1年次開講専門科目の必修科目（Ⅱ群）から	2 単位

- (3) 第3年次から第4年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。

ア 外国語科目（英語）から（必修6単位を含む）	8 単位
イ 外国語科目（英語及び初修外国語）から	4 単位
ウ 3年次開講専門科目（Ⅱ群）から	28 単位
ただし、必修科目6単位以上を含む	
エ 実習・演習から	14 単位
オ 2年次開講専門科目の必修科目（Ⅱ群）から	4 単位

- (4) 第4年次から第5年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。

ア 4年次開講専門科目（Ⅱ群）から	14 単位
ただし、必修科目8単位以上を含み、かつ多職種連携学習または治験のいずれかの単位を取得していること	
イ 実習・演習から	27 単位
ウ 3年次開講専門科目の必修科目（Ⅱ群）から	8 単位
エ アドバンスト科目から	2 単位

- (5) 第5年次から第6年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。

ア 5年次開講専門科目（Ⅱ群）から	2 単位
イ 実習・演習から	47 単位
ただし、臨床薬学実務実習及び総合薬学研究3（24単位）を単位取得見込みであること	

【令和8年度以降入学生適用カリキュラム】

卒業資格の要件

卒業できる資格は、6年間以上在学し、次の単位を修得することにより得られます。

科 目	卒 業 要 件	卒業必要単位数
共通教養科目	<p>近大ゼミ、学部基礎科目を除く共通教養科目から 10 単位 <u>ただし、人間性・社会性科目群より2単位以上、課題設定・ 問題解決科目群より2単位以上、地域性・国際性科目群およ びスポーツ表現活動科目群より2単位以上</u></p> <p>近大ゼミ(必修) 2 単位</p> <p>学部基礎科目(必修) 8 単位</p>	20 単位
外国語科目	<p>英語から 8 単位 <u>ただし、必修科目6単位を含む</u></p> <p>さらに</p> <p>英語及び初修外国語から 4 単位</p>	12 単位
専 門 科 目	<p>必修科目(Ⅱ群) 26 単位</p> <p>選択必修科目(Ⅰ群)から 34 単位 <u>ただし、化学系18単位・生物系16単位を含む</u></p> <p>選択必修科目(Ⅱ群)から 36 単位 <u>ただし、6年次開講選択必修科目4単位を含む</u></p> <p>専門英語から 3 単位</p> <p><u>アドバンスト科目から</u> 2 単位</p> <p>実習・演習(必修)から 59 単位 ただし、薬学実践実習は含まない</p>	160 単位
合 計		192 単位

※特に下線部に注意すること。

共通教養科目(学部基礎科目含む)・外国語科目表(1)

【令和8年度以降入学生適用カリキュラム】

医療薬学科

科目一覧		単位数	開講年次						備考	
			1年次		2年次		3年次			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通 教養 科目	人間性・社会性科目群	人権と社会 1	2	○						
		人権と社会 2	2		○					
		暮らしのなかの憲法	2	○	○					KICS オンデマンドのみ開講
		現代社会と倫理	2	○						
		心理と行動	2		○					
		住みよい社会と福祉	2				○			
		教養特殊講義 A	2		○					
	国際性・地域性科目群	生活環境科学	2	○						
		国際化と異文化理解	2		○					
		教養特殊講義 B	2	○						履修者数の制限有
	課題設定・問題解決科目群	近大ゼミ	2	◎						
		基礎数学	2	○	○					KICS オンデマンドのみ開講
		情報科学入門	2	○						
		データリテラシー入門	2	○	○					KICS オンデマンドのみ開講
		物理学概論	2	○						
		日本語の技法	2			○	○			KICS オンデマンドのみ開講
		暮らしのなかの起業入門	2	○						KICS オンデマンドのみ開講
	教養特殊講義 C	2		○						
	スポーツ実活動科目群	生涯スポーツ 1	1	○						
		生涯スポーツ 2	1		○					
	学部基礎科目	基礎化学	2	◎						
基礎生物学		2	◎							
化学入門		2	◎							
生物学入門		2	◎							
外国語科目	英語	英語演習 1	2	◎						
		英語演習 2	2		◎					
		英語演習 3	1			◎				
		英語演習 4	1				◎			
	英語	オーラルイングリッシュ1	1	○						
		オーラルイングリッシュ2	1		○					
		オーラルイングリッシュ3	1			○				
		オーラルイングリッシュ4	1				○			
		T O E I C 1	1			○				履修者数の制限有
		T O E I C 2	1				○			

(注) ◎印は必修、○印は選択を表す。

共通教養科目(学部基礎科目含む)・外国語科目表(2)

医療薬学科

科目一覧		単位数	開講年次						備考		
			1年次		2年次		3年次				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期			
外国語科目	初修	ドイツ語総合1	1	○						履修者数の制限有	
		ドイツ語総合2	1		○						
		ドイツ語総合3	1			○					
		ドイツ語総合4	1				○				
		ドイツ語コミュニケーション1	1			○					
		ドイツ語コミュニケーション2	1				○				
		ドイツ語コミュニケーション3	1					○		3～4年次配当	
		ドイツ語コミュニケーション4	1						○		
		フランス語総合1	1	○							履修者数の制限有
		フランス語総合2	1		○						
	フランス語総合3	1			○						
	フランス語総合4	1				○					
	フランス語コミュニケーション1	1			○						
	フランス語コミュニケーション2	1				○					
	フランス語コミュニケーション3	1					○		3～4年次配当		
	フランス語コミュニケーション4	1						○			
	中国語総合1	1	○							履修者数の制限有	
	中国語総合2	1		○							
	中国語総合3	1			○						
	中国語総合4	1				○					
中国語コミュニケーション1	1			○							
中国語コミュニケーション2	1				○						
中国語コミュニケーション3	1					○		3～4年次配当			
中国語コミュニケーション4	1						○				

(注) ○印は選択を表す。

(注) 英語発展科目・単位認定および初修外国語履修フローチャート・ガイドラインについては p.63～を確認してください。

(注) 外国語科目は1クラス40名程度を上限としているため、履修希望者が多ければ抽選が発生することがあります。

専 門 科 目 表 (1)
【令和8年度以降入学生適用カリキュラム】

医療薬学科

学群	選 択 科 目	単 位 数	開 講 年 次						備 考										
			1年次		2年次		3年次			4年次		5年次		6年次					
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期	前期	後期				
I 群	選 択 必 修 科 目 ・ 化 学 系	基礎有機化学	2	○															
		有機化学1	2		○														
		分析化学1	2		○														
		薬用資源学	2		○														
		基礎物理化学	2		○														
		物理化学	2			○													
		有機化学2	2			○													
		分析化学2	2			○													
		生物有機化学	2				○												
		分析化学3	2				○												
	選 択 必 修 科 目 ・ 生 物 系	細胞生物学	2		○														
		基礎生化学	2		○														
		人体生理学1	2		○														
		分子薬理学	2			○													
		人体生理学2	2			○													
		生化学	2			○													
		微生物学	2			○													
		免疫学	2				○												
分子生物学	2				○														
II 群	必 修 科 目	薬学概論	2	◎															
		生命倫理	2			◎													
		神経病態薬理学	2				◎												
		疾患と薬物治療法1	2					◎											
		基礎医療薬学	2					◎											
		医薬品情報学	2					◎											
		薬物動態学1	2					◎											
		多職種連携学習	1							◎									
		調剤学	2							◎									
		ファーマシューティカルケア	2							◎									
		医療・薬事関係法規	2							◎									
		医療薬学総論	2								◎								
		治験	1								◎								
		実践病態と治療	2									◎							

(注) ◎印は必修、○印は選択必修を表す。

専 門 科 目 表 (2)

医療薬学科

学群	選 択 科 目	単 位 数	開 講 年 次						備 考						
			1 年次		2 年次		3 年次			4 年次		5 年次		6 年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期	前期	後期
Ⅱ 群	選 択 必 修 科 目	放 射 化 学			○										
		製 剤 学 1			○										
		病 態 薬 理 学 1			○										
		病 態 薬 理 学 2					○								
		薬 学 統 計 学					○								
		製 剤 学 2					○								
		医 薬 品 化 学					○								
		環 境 毒 性 学					○								
		漢 方 薬 学							○						
		化 学 療 法 学							○						
		病 態 検 査 学							○						
		臨 床 薬 物 動 態 学							○						
		薬 物 動 態 学 2							○						
		疾患と薬物治療法 2							○						
		公 衆 衛 生 学 1							○						
		疾患と薬物治療法 3									○				
		薬 と 経 済									○				
		公 衆 衛 生 学 2									○				
		社 会 薬 学											○		
		薬効薬理処方解析											○		
がん治療学医薬看連携講義											○				
専 門 英 語	生 物 学 英 語	1			○										
	化 学 英 語	1			○										
	薬 学 英 語	1				○									
	臨 床 薬 学 英 語	1				○									
ア ド バ ン ス ト 科 目	応 用 物 理 学	2			○								教職課程		
	天 然 物 薬 化 学	2					○								
	創 薬 化 学	2					○								
	ゲノム創薬と再生医療	2					○								
	物 理 学 実 習	2					○						教職課程		
	香 粧 品 学	2							○						

(注) ◎印は必修、○印は選択必修を表す。

応用物理学及び物理学実習は、教員免許状取得を目指す学生（教職課程）に対して開講しています。

詳しくは学生センターまでお問い合わせください。

アドバンスト科目は、進級要件・卒業要件として2単位が必要です。

専 門 科 目 表 (3)

医療薬学科

学群	選 択 科 目	単 位 数	開 講 年 次						備 考									
			1 年次		2 年次		3 年次			4 年次		5 年次		6 年次				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期	前期	後期			
実 習 ・ 演 習	情 報 科 学 実 習	1	◎															
	基 礎 薬 科 学 実 習	1.5		◎														
	早 期 体 験 学 習	1		◎														
	医薬品物性・製剤学実習	1.5			◎													
	免疫・分子生物学実習	1.5				◎												
	有機化学・生薬学実習	1.5				◎												
	衛生化学・放射化学実習	1.5					◎											
	薬効薬物動態解析実習	1.5					◎											
	物理化学生物学演習 1	1						◎										
	総合薬学研究 1	2						◎										
	物理化学生物学演習 2	1							◎									
	総合薬学研究 2	2							◎									
	フィジカルアセスメント	0.5							◎									
	医療情報演習	0.5							◎									
	実務実習事前学習	6								◎								
	総合演習 1	3								◎								
	臨床薬学実務実習	20									◎							
	総合薬学研究 3	4									◎							
	薬学実践実習	4										◎						
	総合薬学演習	4											◎					
総合演習 2	4												◎					

(注) ◎印は必修、○印は選択を表す。

(注) 薬学実践実習は、卒業資格「実習・演習(必修)から 59単位」には含まれません。

そ の 他

(1) リメディアル授業について

薬学を学ぶためには「化学」および「生物」の基礎学力が不可欠です。しかし、高校において「化学」または「生物」を履修していなかったり、あるいは履修していても受験科目でなかったため十分に学習できずに基礎学力が不足したまま入学し、学修に苦勞している学生が多く見受けられます。そこで、両科目の基礎学力を補うことを目的として、新学期開始と同時に「リメディアル講義」を開講しています。まず、専任教員による本講義を全員が履修（必須）し、講義終了後に実施する試験の結果に基づき、高校教諭によるリメディアル講義の受講者を判定します。該当者は必ず当該講義を履修しなければなりません。

(2) 近大ゼミについて

医療の高度化やチーム医療及び医薬分業の推進などの背景から、社会の要請に応える薬剤師となるためには、自ら問題を発見し、情報を検索・収集・整理し、得た知識を持って自ら問題を解決する能力が必要となります。これら能力の基礎を作るため、近大ゼミでは、受動的な学習ではなく、自らが能動的な態度で学習する習慣を身につけることを目的として、少人数のゼミナール形式でのグループワークを中心に行います。自分達で設定した課題について、発表・討議を通じて論理的思考力、表現力、批判力を養いつつ、主体的に学習しなければならないことを認識し、読む、調べる、書く、まとめる、話す、発表するなどのアカデミックスキルを身に付けることを目的とします。また、近大ゼミは、学び舎としての近畿大学の歴史や教育方針を知る機会であるとともに、自らの力でキャリアをデザインできるようになること、教員と学生間あるいは学生同士のコミュニケーションを促し、大学生活が円滑に送れるようになるための第一歩と位置づけています。

(3) 薬剤師国家試験についてヒューマニズム教育・医療倫理教育について

薬剤師として求められる基本的な資質・能力として、「豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識をもち、薬剤師として人の健康の維持・増進に貢献する使命感と責任感を有し、患者・生活者の権利を尊重してその利益を守る倫理観をもつ」ことが求められています。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育に対応する科目として、「薬学概論（1年前期）」、「早期体験学習（1年通年）」、「生命倫理（2年前期）」、「多職種連携学習（4年前期）」、「ファーマシューティカルケア（4年前期）」、「フィジカルアセスメント（4年前期）」、「実務実習事前学習（4年後期）」、「臨床薬学実務実習（4年後期～5年後期）」、「治験（4年後期）」を開講しています。

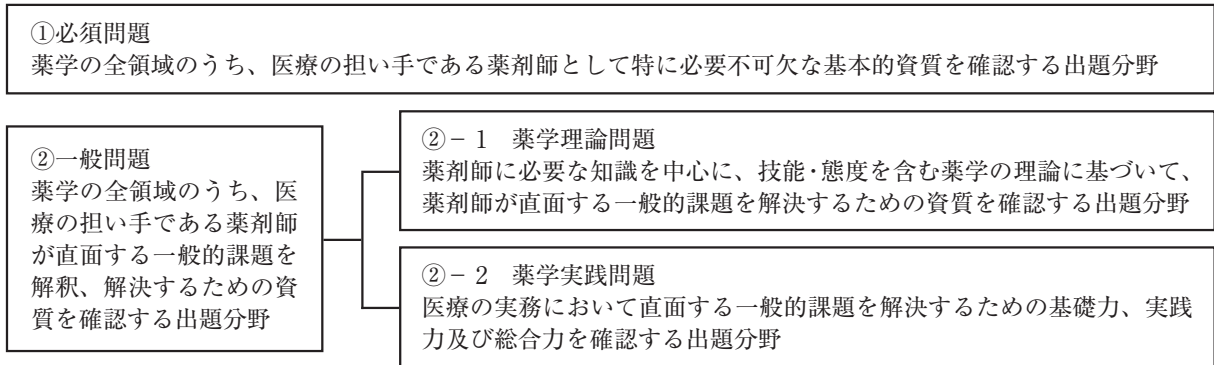
(4) 薬剤師国家試験について

本学の医療薬学科（6年制）を卒業すれば、学士（薬学）の学位が授与され、薬剤師国家試験の受験資格が得られます。

現在、この国家試験は年1回、2月下旬に実施されており、卒業見込みで受験できますが、卒業資格を取得しなければ薬剤師免許を取得することはできません。6年制薬学部卒業者に対する薬剤師国家試験では、1) 基礎的な知識や技能、2) 高い倫理観、3) 医療人としての教養、4) 医療現場で通用する実践力などを有しているかを確認するために、下図に示す出題区分に基づいて出題されます。

問題を大きく①必須問題と②一般問題に分け、一般問題はさらに薬学理論問題および薬学実践問題に区分されて出題されます。医療薬学科目では実務問題のほかに「複合問題」として、より総合的な知識を問う問題が出題されます。また、基礎薬学科目でも「複合問題」として、医療との関連性を重視した問題が出題されます。厚生労働省が公表している国家試験の科目、問題区分、出題数を次の表に示しています（※令和7年度時点のものであり、今後変更されることがあります）。

《図：薬剤師国家試験の出題区分》



《表：薬剤師国家試験の科目、問題区分、出題数》

科 目	問 題 区 分				出題数計
	必須問題	一般問題	薬学理論問題	薬学実践問題	
物理・化学・生物	15 問	45 問	30 問	15 問 (複合問題)	60 問
衛 生	10 問	30 問	20 問	10 問 (複合問題)	40 問
薬 理	15 問	25 問	15 問	10 問 (複合問題)	40 問
薬 剤	15 問	25 問	15 問	10 問 (複合問題)	40 問
病態・薬物治療	15 問	25 問	15 問	10 問 (複合問題)	40 問
法規・制度・倫理	10 問	20 問	10 問	10 問 (複合問題)	30 問
実 務	10 問	85 問	-	20 問 + 65 問 (複合問題)	95 問
出題数計	90 問	255 問	105 問	150 問	345 問

(注) 第104回薬剤師国家試験から、以下のすべてを満たすことを合格基準としています。

なお、禁忌肢(薬剤師として選択すべきでない選択肢)の選択状況が加味されることになりました。

- ①問題の難易を補正して得た総得点について、平均点と標準偏差を用いた相対基準により設定した得点以上であること。
- ② 必須問題について、全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の30%以上であること(具体的には、物理・化学・生物：5点以上、衛生：3点以上、薬理：5点以上、薬剤：5点以上、病態・薬物治療：5点以上、法規・制度・倫理：3点以上、実務：3点以上で合計63点以上が必要)。

(5) 薬学共用試験について

薬学共用試験とは、薬剤師免許を持たない学生が臨床現場での実務実習で調剤業務、服薬指導を行う際に必要となる基本的知識（知識・技能・態度）を有していることを証明するための試験です。本試験では、コンピュータによる知識試験（CBT）310問と、技能・態度を評価する臨床能力試験（OSCE）6課題に合格しなければなりません。

薬学共用試験は4年次後半に実施され、これに合格しなければ4年次2月から開始される臨床薬学実務実習を履修することができません。

(6) 実務実習事前学習及び臨床薬学実務実習について

薬剤師を養成する教育では、4年次に学内での実務実習事前学習、4年次後期～5年次に22週間の臨床薬学実務実習を行うことが義務づけられています。実務実習事前学習では大学教員だけでなく、医療現場の現役薬剤師が参加し指導が行われます。

薬局における実務実習では、保険調剤の実習はもとより、セルフメディケーションにおける薬剤師の関わりあるいは在宅医療まで幅広い薬剤師業務を実習を通じて学習できます。一方、病院における実務実習では、生活習慣病からがん化学療法、感染症治療まで最新の薬物療法を実習を通じて学習します。

(7) 臨床薬学実務実習の心得

平成22年度から薬学教育6年制のもとでの薬局および病院におけるそれぞれ11週間にわたる実務実習が行われています。実務実習は、大学での事前学習で学んできた知識・技能・態度を基に、臨床現場で実践的な臨床対応能力を身に付ける参加・体験型学習であり、将来、医療、保健、福祉等における社会的ニーズに貢献する薬剤師として活躍できる基本的な知識・技能・態度、そして問題解決能力の習得を目指すものです。皆さんは事前学習において、基本的な技能、態度は学習済みですが、医療現場において実際の患者さんや薬剤師、他の医療スタッフとの関わりはこの実習から始まります。指導薬剤師の先生方・患者さんへの良識あるマナー、良好なコミュニケーションが実習の成功・不成功の要となります。特に、薬局および病院は患者さんが来られる医療施設です。白衣を着用していれば、患者さんからは医療施設のスタッフとして見られますので、行動・会話は慎重にし、以下の基本的な注意事項とともに、大学及び薬局・病院からの注意事項を厳守し、節度ある実習を行ってください。

（詳細については、学年進行に合わせて案内します。）

- ① 実習を通して知り得た患者情報、施設情報は実習期間中、実習終了後の時期を問わず一切漏洩することがないように、守秘義務を厳守すること。
- ② 薬局、病院の規則を厳守すること。
- ③ 指導者の指示に従い、不明な点は必ず指示を受け、自分勝手に処理しないこと。
- ④ 直接医薬品を扱うときは、間違いのないよう特に慎重に行動すること。
- ⑤ 白衣及び身だしなみは清潔にすること。
- ⑥ 実習期間中、早退・遅刻・休みをとるときは、必ず薬局、病院の指導者へ事前に届けること。
- ⑦ 体調管理を厳重に行い、体調不良の場合は、必ず薬局、病院の指導者の指示を受けること。
- ⑧ 入退室時の挨拶は声に出してはっきり行うこと。
（おはようございます、ありがとうございました、お先に失礼いたします、など）
- ⑨ 実習した内容は、毎日、必ず大学で指導を受けた形式に従い実習記録に残すこと。
- ⑩ SNSなどのWeb情報ツールに実務実習に関連した投稿を一切行わないこと。

(8) 総合薬学研究1、2および3について

医療薬学科では、幅広い専門知識を有する薬剤師の養成を基本としていますが、さらに、薬剤師としての資質を活かし、臨床で発生する様々な問題を解決する能力、あるいは医薬品研究の発展に貢献できるリサーチマインドを有する人材の養成を目標としています。そのため、6年間のカリキュラムにおいて、「総合薬学研究1（3年後期）、2（4年前期）および3（4年後期～6年前期）」を設定しています。これらの履修は、配属された研究室または分野の教員の指導のもとで一連の研究を行います。

総合薬学研究1および2では、連続する1年間を通して、研究テーマの設定、研究準備から開始し、研究成果を得ることを目標としています。また、総合薬学研究3では、さらに高度な研究を遂行するために必要な知識・技能・態度を修得することが重要です。

総合薬学研究3では、総合薬学研究1および2で修得した知識、技能に基づき、研究をさらに発展させることを目標としており、所定の時期に総合薬学研究1～3を通して得られた研究成果をまとめ、発表します。

総合薬学研究1～3の単位はそれぞれ、別途、薬学部が定める所定の方法により認定されます。

なお、研究室または分野への配属については、各自の希望と3年前期までの成績を基に決定され、原則として総合薬学研究1～3を通して同一の研究室または分野で指導を受けることになります。

(9) 物理化学生物学演習1および2について

薬に関する総合的な知識は、臨床現場で問題解決能力を発揮するための基盤となります。薬の化学構造、化学的性質、分析方法、ならびに生命現象の基礎など、3年生までに学修した薬学教育モデル・コアカリキュラムの「薬学基礎（物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学）」の基本的知識について、専門教員が問題解説を行う総復習型・統合型の演習科目として「物理化学生物学演習1および2」を設定し、薬の作用を理論的に解析する能力の修得を目指します。

(10) 総合演習1について

実践型薬剤師は、基礎知識、豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養、現場で通用する実践力を身につける必要があります。特に、病院・薬局において参加型実習を実践する際には、あらかじめ知識、技能、態度を評価することが必須とされ、薬学教育においてモデル・コアカリキュラムが策定されています。ここでは、薬学生が身につけるべき必須の能力が10項目の“薬剤師として求められる基本的な資質・能力”としてあげられ、実践的な臨床能力をもつ、求められる薬剤師像が明確になっています。

総合演習1では、実務実習前に必要とされる知識を修得します。薬学共用試験センターが実施するCBTに出題される「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の学修目標のうち、1～4年次に学んだことを総括的に学修し、CBTに合格するために相応した総合的な知識を身につけます。

授業方法は、月1回行う試験結果に基づいたクラス編成とし、不得意分野の強化を図る演習選択方式とします。詳細については4月のガイダンスで詳しく説明します。

(11) 総合薬学演習について

総合薬学演習では、総合演習2に先立ち、講義・演習を通じて基礎科目および実務実習で得られた実践的な知識を定着させていきます。

6年次に本演習を受講し、前期期間中に基礎薬学（物理・化学・生物）分野の総復習を行い、同時に実務実習の復習を行って、臨床現場の様々な課題を理論的に読み解く力を修得します。本演習では、それぞれの学力に応じた対策を行います。

また、本演習の受講は、後期の総合演習2と連携し、国家試験合格に必要な基礎学力を修得することを目的としています。詳細については、4月に実施するガイダンスで説明します。

(12) 総合演習2について

実践型薬剤師の養成には、基礎知識、豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養、現場で通用する実践力を身につける必要があります。総合演習2では、大学での講義および臨床現場での参加型実習を踏まえ、臨床も含めた複合的な課題を、総合的に解決するために必要な知識・能力を修得します。

また、総合薬学演習で身につけた基礎学力をもとに、国家試験合格に相応しい総合的な学力を育成します。さらに、薬剤師国家試験に準じた試験を月1回行い、必要に応じて補講を実施します。単位の認定は、定期試験に相当する2回の試験により行います。詳細については、4月に実施するガイダンスで説明します。

創薬科学科

創薬科学科の学修について	53
進級基準・卒業資格の要件	54
共通教養科目・外国語科目表	56
専門科目表	58
その他	61

創薬科学科の学修について

創薬科学科長

前 川 智 弘

最近の薬学関連領域の技術革新は目覚ましく、ゲノム編集、抗体・核酸医薬品、再生医療など、画期的な新薬を開発するための新規技術が次々と生み出されています。近畿大学薬学部創薬科学科では、このような最新技術にも精通し、医薬品の研究開発や生命科学、医療産業、行政などの多彩な薬学関連領域において、グローバルに活躍できる人材を育成し、社会に輩出することを目標にしています。

そのために、創薬科学科においては、基礎から応用まで創薬にかかわる幅広い科目群からなるカリキュラムを用意しています。具体的には、分析化学や有機化学、生化学のような基礎的な科目から、薬の作用を学ぶ薬理学や医薬品化学をはじめ、漢方薬学、製剤学、免疫学、微生物学、公衆衛生などの薬学系の専門科目、さらには、ゲノム創薬やインシリコ創薬、再生医療、データサイエンスなど創薬・医療の現場で取り入れられている先端技術を学ぶ講義・実習科目をラインナップしています。

また、将来グローバルに活躍できる人材を育成するために、英語力を強化する科目を用意しています。その他にも、臨床検査技師や医薬品登録販売者、放射線取扱主任者、危険物取扱者といった国家資格や専門資格を得るための科目や講座も用意しています。

さらに2年生から3年生にかけては、キャリアデザインや産学連携講座、インターンシップなど、就職活動を意識した授業・演習科目も開講しています。

研究活動では、2年次に希望する研究室で研究体験をするプログラムがあります。そして、3年前期から研究室に配属となり約2年間にわたる卒業研究を実施します。また、大学院の講義科目を学部4年次に履修する「早期履修制度」も導入しており、この制度により、大学院博士前期課程を早期修了し、博士後期課程に進学することが可能です。これらの研究活動を通し、未知の問題を解決する喜び、新たな発見の感動、といった研究の醍醐味を味わっていただきたいと思います。

卒業後は、皆さんが有能な薬学研究者や薬学技術者、さらには人の健康に資する人材として社会に出て活躍できるように、薬学部の全教職員が一丸となって大学生活をサポートし応援します。皆さんも全力で取り組んでください。

進級基準・卒業資格の要件及び授業科目【創薬科学科】

【令和8年度以降入学生適用カリキュラム】

進級基準

薬学部創薬科学科では各年次ごとに進級のための基準が設けられています。この基準どおりの単位を修得できなければ留年となります。

各年次への進級基準（必要単位数）は次のとおりです。

(1) 第1年次から第2年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。

ア 共通教養科目（近大ゼミ・学部基礎科目を除く）	7 単位
イ 共通教養科目（近大ゼミ）	2 単位
ウ 共通教養科目（学部基礎科目）から	6 単位
エ 外国語科目（英語）から	4 単位
オ 外国語科目（英語及び初修外国語）から	1 単位
カ 専門科目の必修科目から	13 単位
キ 実習科目から	2.5 単位

(2) 第2年次から第3年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。

ア 共通教養科目（近大ゼミ・学部基礎科目を除く）	9 単位
ただし、人間性・社会性科目群より2単位以上、課題設定・問題解決科目群より2単位以上、地域性・国際性科目群およびスポーツ表現活動科目群より2単位以上を含む	
イ 共通教養科目（学部基礎科目）から	8 単位
ウ 外国語科目（英語及び初修外国語）から	10 単位
エ 専門科目の必修科目から	33 単位
オ 選択必修科目から	4 単位
カ 実践科目から	1 単位
キ 実習科目から	6.5 単位

(3) 第3年次から第4年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。

ア 外国語科目（英語及び初修外国語）から （必修10単位含む）から	12 単位
イ 専門科目の必修科目から	38 単位
ウ アドバンスト科目ⅠまたはⅡから	2 単位
エ 選択必修科目Ⅰから	8 単位
オ 選択必修科目Ⅱから	2 単位
カ 実践科目から	3 単位
キ 実習科目から	9.5 単位

【令和8年度以降入学生適用カリキュラム】

卒業資格の要件

卒業できる資格は、4年間以上在学し、次の単位を修得することにより得られます。

科 目	卒 業 要 件	卒業必要単位数
共通教養科目	近大ゼミ、学部基礎科目を除く共通教養科目から 9 単位 <u>ただし、人間性・社会性科目群より 2 単位以上、課題設定・問題解決科目群より 2 単位以上、地域性・国際性科目群およびスポーツ表現活動科目群より 2 単位以上</u> 近大ゼミ（必修） 2 単位 学部基礎科目（必修） 8 単位	19 単位
外国語科目	英語及び初修外国語の中から 14 単位 <u>ただし、必修 12 単位を含む</u>	14 単位
専 門 科 目	必修科目 44 単位 選択必修科目 I 12 単位 <u>ただし、A 群または B 群いずれか同じ群から 12 単位修得のこと</u> 選択必修科目 II 4 単位 <u>ただし、A 群または B 群いずれか同じ群から 4 単位修得のこと</u> アドバンスト科目 I から 2 単位 アドバンスト科目 II から 2 単位 実践科目から 4 単位 専門英語（必修） 3 単位 実習科目（必修） 21.5 単位	92.5 単位
合 計		125.5 単位

共通教養科目(学部基礎科目含む)・外国語科目表(1)

【令和8年度以降入学生適用カリキュラム】

創薬科学科

科目一覧		単位数	開講年次						備考		
			1年次		2年次		3年次				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期			
共通 教養 科目	人間性・社会性科目群	人権と社会 1	2	○						臨検 推奨	
		人権と社会 2	2		○					臨検 推奨	
		暮らしのなかの憲法	2	○	○						KICS オンデマンドのみ開講
		現代社会と倫理	2	○							臨検 推奨
		心理と行動	2	○	○						臨検 推奨・KICS オンデマンドのみ開講
		住みよい社会と福祉	2			○	○				KICS オンデマンドのみ開講
		教養特殊講義 A	2		○						
	地域性・国際性科目群	生活環境科学	2	○							
		国際化と異文化理解	2		○						臨検 推奨
		教養特殊講義 B	2	○							履修者数の制限有
	課題設定・問題解決科目群	近大ゼミ	2	◎							
		基礎数学	2	○	○						KICS オンデマンドのみ開講
		情報科学入門	2	○							臨検 必修・オンデマンド
		データリテラシー入門	2		○						KICS オンデマンドのみ開講
		物理学概論	2	○							
		日本語の技法	2			○	○				KICS オンデマンドのみ開講
		暮らしのなかの起業入門	2	○							KICS オンデマンドのみ開講
	スポーツ実活動科目群	生涯スポーツ 1	1	○							
		生涯スポーツ 2	1		○						
	学部基礎科目	化学入門	2	◎							
		生物学入門	2	◎							
基礎化学		2	◎								
基礎生物学		2	◎								
外国語科目	英語	英語演習 1	2	◎							
		英語演習 2	2		◎						
		英語演習 3	2			◎					
		英語演習 4	2				◎				
	英語	オーラルイングリッシュ1	1	◎							
		オーラルイングリッシュ2	1		◎						
		オーラルイングリッシュ3	1			◎					
		オーラルイングリッシュ4	1				◎				
		T O E I C 1	1			○					
		T O E I C 2	1				○				履修者数の制限有

(注) ◎印は必修、○印は選択を表す。

(臨検 必修) …臨床検査技師国家試験受験資格を得るためには「必修」の科目を表す。

(臨検 推奨) …臨床検査技師国家試験受験資格を得るうえで「必修」ではないが、履修を推奨する科目を表す。

共通教養科目(学部基礎科目含む)・外国語科目表(2)

創薬科学科

科目一覧		単位数	開講年次						備考		
			1年次		2年次		3年次				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期			
外国語科目	初修	ドイツ語総合1	1	○						履修者数の制限有	
		ドイツ語総合2	1		○						
		ドイツ語総合3	1			○					
		ドイツ語総合4	1				○				
		ドイツ語コミュニケーション1	1			○					
		ドイツ語コミュニケーション2	1				○				
		ドイツ語コミュニケーション3	1					○		3～4年次配当	
		ドイツ語コミュニケーション4	1						○		
		フランス語総合1	1	○							履修者数の制限有
		フランス語総合2	1		○						
	フランス語総合3	1			○						
	フランス語総合4	1				○					
	フランス語コミュニケーション1	1			○						
	フランス語コミュニケーション2	1				○					
	フランス語コミュニケーション3	1					○		3～4年次配当		
	フランス語コミュニケーション4	1						○			
	中国語総合1	1	○							履修者数の制限有	
	中国語総合2	1		○							
	中国語総合3	1			○						
	中国語総合4	1				○					
中国語コミュニケーション1	1			○							
中国語コミュニケーション2	1				○						
中国語コミュニケーション3	1					○		3～4年次配当			
中国語コミュニケーション4	1						○				

(注) ○印は選択を表す。

(注) 英語発展科目・単位認定および初修外国語履修フローチャート・ガイドラインについては p.63 ～を確認してください。

(注) 外国語科目は1クラス40名程度を上限としているため、履修希望者が多ければ抽選が発生することがあります。

専 門 科 目 表 (1)
【令和8年度以降入学生適用カリキュラム】

創薬科学科

	科 目	単 位 数	開 講 年 次								備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
必 修 科 目	薬学概論	2	◎											
	基礎有機化学	2	◎											
	有機化学1	2		◎										
	薬用資源学	2		◎										
	基礎生化学	2		◎									臨床検査技師関連科目	
	人体生理学1	2		◎									臨床検査技師関連科目	
	分析化学1	2		◎										
	化学熱力学	2		◎										
	化学演習	1		◎										
	生物学演習	1		◎										
	解剖組織学	2		◎									臨床検査技師関連科目	
	人体生理学2	2			◎								臨床検査技師関連科目	
	分子薬理学	2			◎									
	有機化学2	2			◎									
	分析化学2	2			◎									
	微生物学	2			◎								臨床検査技師関連科目	
	バイオ・ゲノム薬科学	2				◎							臨床検査技師関連科目	
	神経病態薬理学	2				◎							臨床検査技師関連科目	
	免疫学	2				◎							臨床検査技師関連科目	
	放射化学	2				◎							臨床検査技師関連科目	
病態薬理学1	2				◎							臨床検査技師関連科目		
環境毒性学	2						◎					臨床検査技師関連科目		
薬物動態学	2						◎					臨床検査技師関連科目		
選 択 必 修 科 目 I	A群	物理化学	2			●								
		生化学	2			●								
		有機反応化学	2				●							
		分析化学3	2				●							
		製剤学	2					●						
		薬学統計学	2						●					
	B群	医療安全管理学1	0.5		●									臨床検査技師関連科目
		栄養学	0.5			●								臨床検査技師関連科目
		一般検査学	2			●								臨床検査技師関連科目
		血液検査学	3			●								臨床検査技師関連科目
		医療安全管理学2	1				●							臨床検査技師関連科目
		微生物検査学	3				●							臨床検査技師関連科目
		公衆衛生学	2					●						臨床検査技師関連科目

(注) ◎印は必修、●印は選択必修を表す。

専門科目における「臨床検査技師関連科目」は、臨床検査技師国家試験受験資格取得をするうえで「必修」のため注意すること。

専 門 科 目 表 (2)

創薬科学科

	科 目	単 位 数	開 講 年 次								備 考	
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
選 択 必 修 科 目 Ⅱ	A 群	データサイエンス演習	1				●					
		プレゼンテーション英語演習	2					●				
		産学連携講座	1					●				
	B 群	染色体検査学	0.5				●					臨床検査技師関連科目*
		検査機器総論	0.5					●				臨床検査技師関連科目*
		輸血・移植検査学実習	1				●					臨床検査技師関連科目*
生化学検査学実習		0.5				●					臨床検査技師関連科目*	
病理検査学実習		1				●					臨床検査技師関連科目*	
	免疫検査学実習	0.5				●					臨床検査技師関連科目*	
アドバンスト科目Ⅰ	天然物薬化学	2				○						
	医薬品化学	2				○						
	創薬化学	2				○						
	病態薬理学 2	2				○					臨床検査技師関連科目	
	ゲノム創薬と再生医療	2				○						
	病理学	2				○					臨床検査技師関連科目	
アドバンスト科目Ⅱ	香粧品学	2					○					
	漢方薬学	2					○					
	生物有機化学	2					○					
	製剤工学	2					○					
	食品薬学	2					○					
	化学療法学	2					○				臨床検査技師関連科目	
実践科目	オープンラボ	1			○							
	キャリアデザイン	1			◎							
	医薬品開発論	2			◎							
	インターンシップ	1				○						
	臨地実習事前学習	1					○				臨床検査技師関連科目、選択必修科目ⅡBの履修条件(*)が必要	
語 専 科 門 目 英	薬学専門英語	2				◎						
	実践科学英語演習	1						◎				
自由 選 択 科 目	臨床検査総合管理学 1	3		○							臨床検査技師関連科目	
	一般検査学実習	1			○						臨床検査技師関連科目	
	疾患の検査診断学	1.2			○						臨床検査技師関連科目	
	微生物検査学実習	1.2			○						臨床検査技師関連科目	
	物理学実習(臨床検査技師)	2			○						臨床検査技師関連科目	
	血液検査学実習	1			○						臨床検査技師関連科目	
	医療安全管理学実習	0.5			○						臨床検査技師関連科目	

(注) ◎印は必修、●印は選択必修、○印は選択を表す。

自由選択科目は、卒業・進級所要単位数に加算されない。

*選択必修科目ⅡB群の履修条件は、1～2年次開講必修科目と選択必修科目ⅠB群を全て修得していること、かつ、医療薬学科の基礎生化学を修得していること(「公衆衛生学」は履修中であること)。

専 門 科 目 表 (3)

創薬科学科

	科 目	単 位 数	開 講 年 次								備 考	
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
自 由 選 択 科 目	輸血・移植検査学	3					○					臨床検査技師関連科目
	生化学検査学	2					○					臨床検査技師関連科目
	病理検査学	4					○					臨床検査技師関連科目
	疾患の検査と治療法1	2					○					臨床検査技師関連科目
	物理学実習(教職課程)	2						○				教職課程(※)
	臨床検査総合管理学2	3						○				臨床検査技師関連科目
	疾患の検査と治療法2	2						○				臨床検査技師関連科目
	病態検査学	2.4						○				臨床検査技師関連科目
	生理検査学	9						○				臨床検査技師関連科目
	生理検査学実習	1						○				臨床検査技師関連科目
	検査学演習	0.5								○		臨床検査技師関連科目
	臨地実習1	3								○		臨床検査技師関連科目
	臨地実習2	8								○		臨床検査技師関連科目
実 習 科 目	情報科学実習	1	◎									臨床検査技師関連科目
	基礎薬科学実習	1.5		◎								
	分析化学・製剤学実習	1			◎							
	有機化学・生薬学実習	1.5			◎							
	免疫・分子生物学実習	1.5				◎						臨床検査技師関連科目
	衛生化学・放射化学実習	1.5					◎					臨床検査技師関連科目
	薬効薬物動態解析実習	1.5					◎					臨床検査技師関連科目
	卒業研究	12								◎		

(注) ◎印は必修、●印は選択必修、○印は選択を表す。

自由選択科目は、卒業・進級所要単位数に加算されない。

※教職課程で必要な物理学実習履修希望者は、履修登録期間中に薬学部学生センターへ申し出ること。

そ の 他

(1) リメディアル授業について

薬学を学ぶためには「化学」および「生物」の基礎学力が不可欠です。しかし、高校において「化学」または「生物」を履修していなかったり、あるいは履修していても受験科目でなかったため十分に学習できずに基礎学力が不足したまま入学し、学修に苦勞している学生が多く見受けられます。そこで、両科目の基礎学力を補うことを目的として、新学期開始と同時に「リメディアル講義」を開講しています。まず、専任教員による本講義を全員が履修（必須）し、講義終了後に実施する試験の結果に基づき、高校教諭によるリメディアル講義の受講者を判定します。該当者は必ず当該講義を履修しなければなりません。

(1) 近大ゼミについて

著しいスピードで進歩する最先端の科学技術を基礎に持ち、創薬研究開発者・技術者になるためには、自ら問題を発見し、情報を検索・収集・処理し、得た知識を活用して自ら問題を解決する能力が必要となります。近大ゼミは、受動的な学習ではなく、自らが能動的な態度で学習する習慣を身につけることを目的として、少人数のゼミナール形式でグループワークを中心に行います。提起された課題について、発表・討議を通じて論理的思考力、表現力、批判力を養い、主体的に学習しなければならないことを認識し、読む、調べる、書く、まとめる、話す、発表するなどのアカデミックスキルを身に付けることを目的とします。また、近大ゼミは、学び舎としての近畿大学の歴史や教育方針を知る機会であるとともに、自らの力でキャリアをデザインできるようになること、教員と学生間あるいは学生同士のコミュニケーションを促し、大学生生活が円滑に送れるようになるための第一歩と位置づけています。

(3) オープンラボ

2年次において、それぞれ異なる研究室で最先端の実験あるいは科学英語論文の抄読会などに参加することにより、研究者としての基礎的技術、知識、あるいは科学英文読解能力などを培うことを目的としています。期間は特に定めていませんが、学生は少なくとも1コマ/週相当以上の時間を研究室等において実験あるいは論文セミナー等に参加し、これらに積極的に取り組みます。研究室で行われる発表会で履修期間内に最低一回はプレゼンテーションを行うとともに、オープンラボ実施期間で学んだ実験技術、成果、あるいは論文セミナー等で理解した内容を教員の指導の下にレポートとしてまとめ、研究室等に提出するとともに基礎ゼミ形式によるポスターあるいはスライド発表を行います。履修学生と教員参加の討論時間も設けます。

これらをもって、評価が判定されます。

(4) 卒業研究について

1～3年にわたる講義・実習を通じて得られた知識・技能を活かし、さらに研究能力と問題解決能力を育むために、3年次と4年次においては、各研究室あるいは薬学総合研究所（以下、研究室等）に配属された上、教員の指導のもと、与えられたテーマについて一連の研究を行う「卒業研究」を履修します。

まず、上記オープンラボにおいて研究室等で体験研究をした後、3年前期から研究室に配属され、研究内容や先輩達の成果を学びながら実験を行います。

その後、約2年近くの期間研究を重ね、4年次の2月にはその成果を公開の場で発表するとともに、卒業研究論文として提出します。さらに、配属された研究分野のみならず、研究者としての幅広い視野を持つことを目的として、薬学関連領域の最新のサイエンスについて学ぶ特別セミナーに参加（配属後から4年次の12月まで）し、レポートを作成します。卒業研究論文提出時に別添資料としてこのレポート

を添付します。これらをもって成績が評価されます。

なお、研究室等への配属については、各自の希望と3年次までの成績により決定されます。

(5) 臨床検査技師国家試験について

創薬科学科では、卒業要件単位に加えて指定科目の単位を修得することにより、臨床検査技師国家試験の受験資格を取得できます。指定科目の多くは現役の臨床検査技師が担当し、4年次の臨地実習に必要な知識や技能を養います。なお、臨地実習へ進むためには「臨地実習前技能到達度評価」への合格が必須です。令和4年度のカリキュラム改定に伴い、資格取得に必要な科目が大幅に増加しています。履修にあたっては、計画的かつ十分な学修時間を確保してください。履修に関する詳細は、別途説明会を開催します。

(6) 特別科目等履修生について

この制度は、創薬科学科4年次に在学する学生のうち近畿大学大学院薬学研究科博士前期課程、および博士後期課程への進学を志す者について、学業成績等の資格を満たすことにより、創薬科学科4年次在学期間中に「特別科目等履修生」として大学院博士前期課程1年次開講の講義、演習科目の一部の履修を認定するものです。

本制度を履修することにより、学部4年次と博士前期課程1年次の2か年で、博士前期課程の修了に必要な講義・演習科目（学会発表含む）をすべて修得し、条件を満たせば大学院薬学研究科博士後期課程への進学が認められます。

英語発展科目・単位認定について

英語発展科目履修のガイドライン

履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。

ただし、TOEIC 2の履修にあたり、TOEIC 1の履修・単位修得は必須ではない。

また履修に必要な学力の目安に示す TOEIC のスコア程度の学力が必要である。

科目名	履修条件	履修に必要な学力の目安
TOEIC 1・2	英語演習1・2 + オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。	TOEIC500 以上

TOEIC® Listening & Reading Test スコアによる単位認定

「TOEIC® Listening & Reading Test」の公開テストまたはIPテスト（ペーパー）を受験し、単位認定を申請する年度の直前の年度中に取得したスコアで700点以上を有する者は、「TOEIC 1・2」の配当学年（2年生）以上の学年の履修登録期間中に、薬学部学生センター窓口で申請することができる。申請が認められた場合、「TOEIC 1・2」（合計2単位）の単位を認定する。ただし、IPテスト（オンライン）受験のスコアは無効とする。

単位認定の申請に使用できる TOEIC® のスコアは、直前の年度中に取得したものに限る。外部の公開テストによる申請の場合は、合格証原本を準備すること。

なお、既に「TOEIC 1・2」の単位を修得済みの場合は、申請しても成績の上書きはされない。

TOEIC® スコア	「TOEIC 1・2」として単位認定する場合の成績評価
800点以上	100点
730点以上 800点未満	95点
700点以上 730点未満	85点

海外英語研修による単位認定

グローバルエデュケーションセンター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は所定の手続きを経て TOEIC 1・2のいずれか履修していない英語発展科目（計2単位）として認定する。

交換留学生合同科目による単位認定

グローバルエデュケーションセンター開講の交換留学生合同科目（英語名：Content Courses）を受講し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

ただし、以下の科目以外の交換留学生合同科目は単位認定の対象外のため注意すること。

科目名	単位数	認定条件
Intercultural Communication and Understanding	2単位	共通教養科目（地域性・国際性科目群）の卒業資格単位として認定される。 （上限4単位）
Intercultural Dimensions and Understanding	2単位	

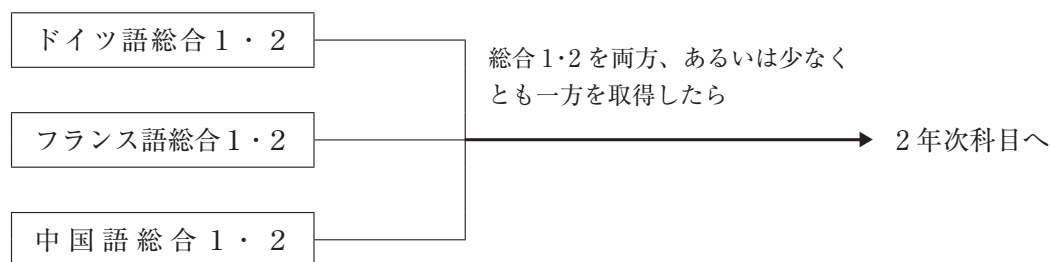
初修外国語について

初修外国語科目一覧

科 目 名	配当学年	単 位	学 期	備 考			
ド イ ツ 語 総 合 1	1	1	前	日本人または ネイティブ教 員担当科目	基幹科目		
ド イ ツ 語 総 合 2	1	1	後				
フ ラ ン ス 語 総 合 1	1	1	前				
フ ラ ン ス 語 総 合 2	1	1	後				
中 国 語 総 合 1	1	1	前				
中 国 語 総 合 2	1	1	後				
ド イ ツ 語 総 合 3	2	1	前			日本人または ネイティブ教 員担当科目	基幹科目
ド イ ツ 語 総 合 4	2	1	後				
フ ラ ン ス 語 総 合 3	2	1	前				
フ ラ ン ス 語 総 合 4	2	1	後				
中 国 語 総 合 3	2	1	前				
中 国 語 総 合 4	2	1	後				
ドイツ語コミュニケーション1	2 - 4	1	前	ネイティブま たは日本人教 員担当科目	発展科目		
ドイツ語コミュニケーション2	2 - 4	1	後				
フランス語コミュニケーション1	2 - 4	1	前				
フランス語コミュニケーション2	2 - 4	1	後				
中国語コミュニケーション1	2 - 4	1	前				
中国語コミュニケーション2	2 - 4	1	後				

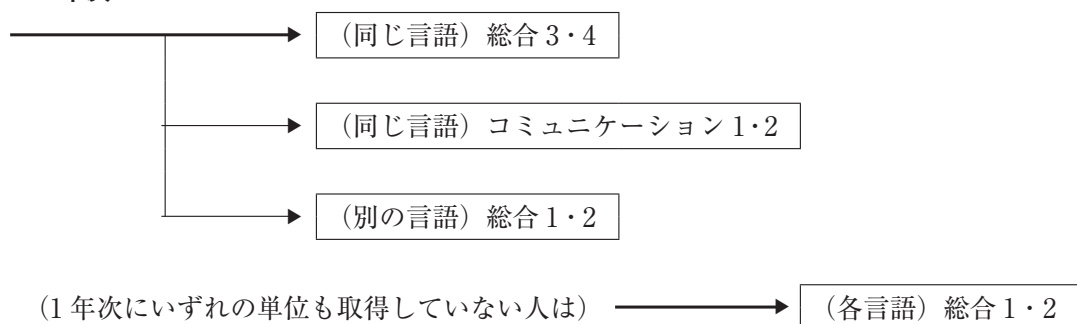
初修外国語履修フローチャート

1年次



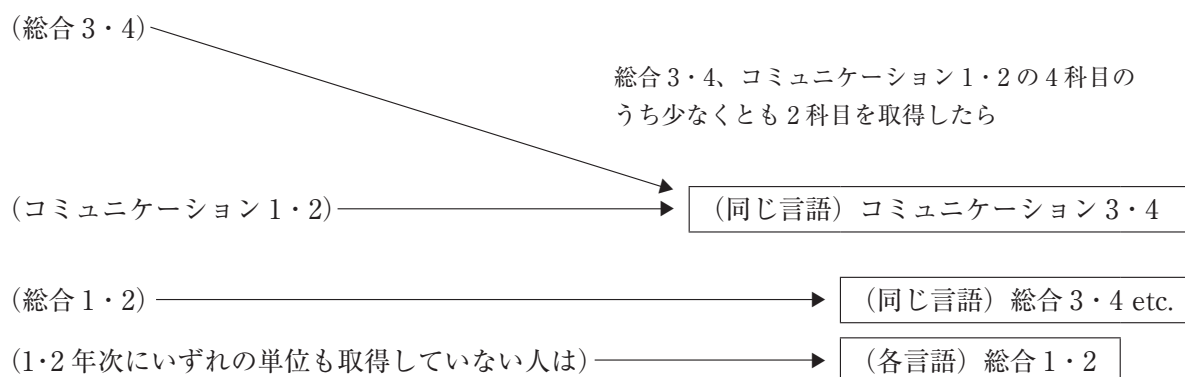
- 「総合1」は前期科目、「総合2」は後期科目。同一言語を1・2継続して履修登録すること。

2年次



- 1と3は前期科目、2と4は後期科目。1・2および3・4は継続して履修登録すること。
 - 「総合1・2」と「総合3・4」は基幹科目。「コミュニケーション1・2」は発展科目。
 - 「総合3・4」と「コミュニケーション1・2」は並行して履修することができる。
- これらの科目は必ず1年次と同じ言語で履修すること。

3・4年次



- 「コミュニケーション3」は前期科目、「同4」は後期科目。3・4は同一言語を継続して履修登録すること。
- これらの科目は必ず2年次と同じ言語で履修すること。

初修外国語科目〈科目名・概要〉

〈ドイツ語・フランス語・中国語 総合1・2〉

(一年選択科目、1は前期、2は後期)(基幹科目)(同一言語を1・2継続して履修する)

新しい外国語に慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようにする。文字、発音、基本語彙と表現、文構造など、聞き、話し、読み、書くというバランスの取れた言語運用に不可欠な基礎的知識を習得する。週1回の授業。

〈ドイツ語・フランス語・中国語 総合3・4〉

(二年選択科目、3は前期、4は後期)(基幹科目)(総合1あるいは2いずれか1科目修得を先修条件とする)

総合1・2で学んだ知識をもとに、その言語のさらにスムーズな運用ができるようにする。比較的長い表現を聞き取って、自分でも言えるように練習する。また平易な文章を読みこなし、手紙や簡単な文章を書ける能力も養う。週1回の授業。

〈ドイツ語・フランス語・中国語 コミュニケーション1・2〉

(二年選択科目、1は前期、2は後期)(発展科目)(総合1あるいは2いずれか1科目修得を先修条件とする)

「話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置く。外国旅行で必ず出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、必要な情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習する。週1回の授業。

〈ドイツ語・フランス語・中国語 コミュニケーション3・4〉

(3年次選択科目、3は前期、4は後期)(発展科目)(総合3・4、コミュニケーション1・2の4科目のうちいずれか2科目修得を先修条件とする)

主に日常会話中心に口頭による言語運用能力の基礎を完成させる。より詳細な表現を聞き取って、自分でも正確に言えるように口頭練習し、様々な場面でさらに詳しい情報交換ができるようにする。週1回の授業。

初修外国語履修のガイドライン

*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。

科 目 名		履修条件
ドイツ語 フランス語 中国語	総合1・2	同一言語を1・2継続して履修登録すること 履修する言語において、「総合1」を履修せずに、それぞれの「総合2」を履修することはできない ただし、前期に「総合1」を履修登録し、単位が修得できなかった場合でも、後期に「総合2」を履修することができる。
ドイツ語 フランス語 中国語	総合3・4	同一言語を3・4継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合1・2のうち、少なくとも一方の単位を取得していることを条件とする
ドイツ語 フランス語 中国語	コミュニケーション1・2	同一言語を1・2継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合1・2のうち、少なくとも一方の単位を取得していることを条件とする
ドイツ語 フランス語 中国語	コミュニケーション3・4	同一言語を3・4継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合3・4、コミュニケーション1・2のうち、少なくとも2科目の単位を取得していることを条件とする（組み合わせは問わない）


研究室一覧（令和8年度）

学科	研究室名	号館	階	教員
医療	生化学研究室	39	11	藤原 俊伸
				深尾亜喜良
医療	化学療法学研究室	39	11	中山 隆志
				松尾 一彦
				原 雄大
医療	薬物治療学研究室	39	11	竹内 雄一 ミシェル チャン
医療	製剤学研究室	39	10	長井 紀章 大竹 裕子
創薬	分子細胞生物学研究室	39	10	山下 暁朗 高崎 輝恒
創薬	薬用資源学研究室	39	9	遠藤 雄一
				村田 和也
				高浦佳代子
医療	薬物動態学研究室	39	9	櫻井 文教
				川瀬 篤史
				島田 紘明
医療	病態薬理学研究室	39	9	川畑 篤史
				関口富美子
				坪田 真帆
医療	臨床薬学部門 (医薬品情報学分野)	39	6	細見 光一 宇野 貴哉
医療	臨床薬学部門 (個別化薬物療法学分野)	39	6	横山 聡 石渡 俊二 井上 知美
医療	臨床薬学部門 (社会薬学分野)	31	1	大鳥 徹
				高橋 克之
				小松 唯可

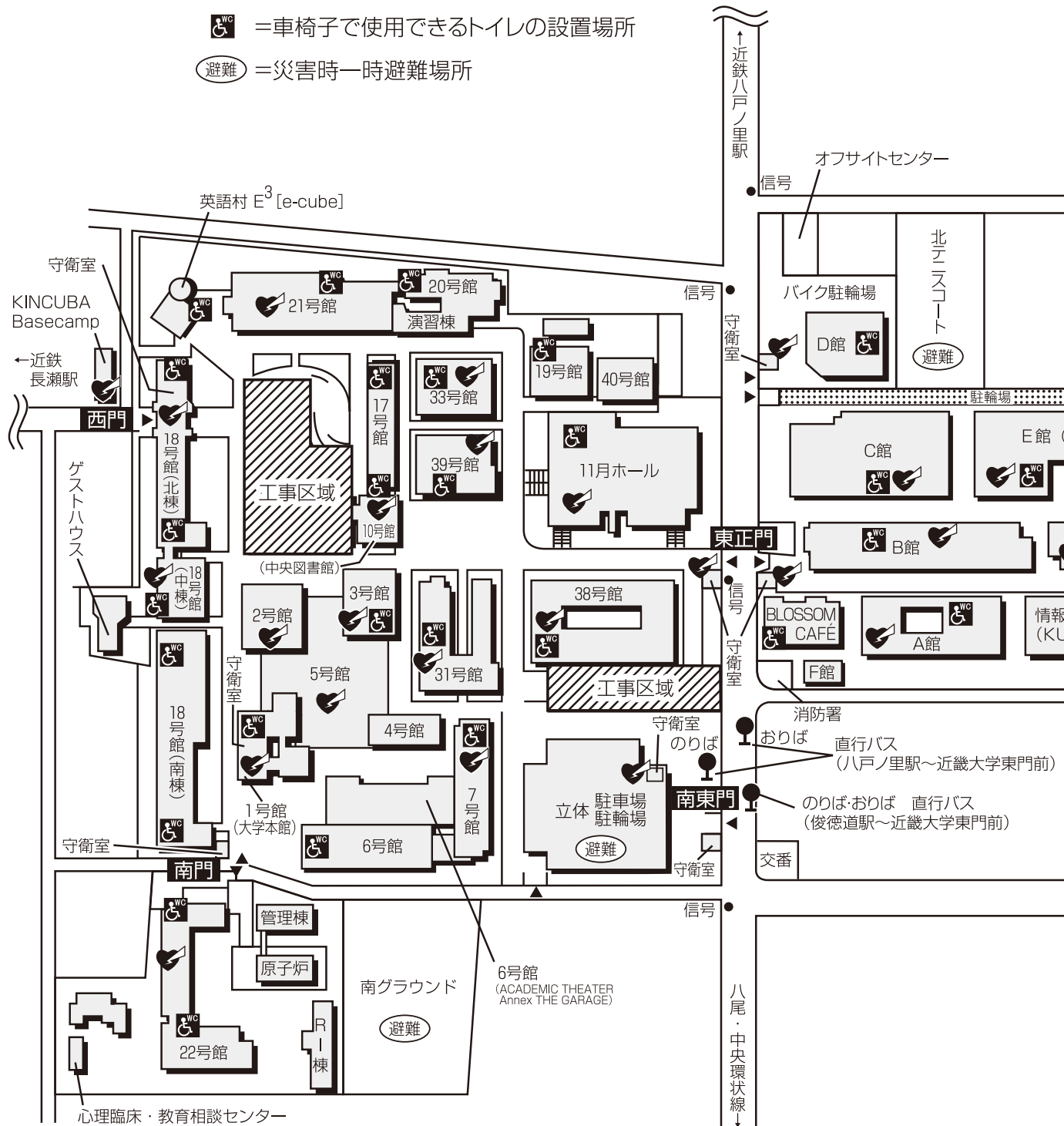
学科	研究室名	号館	階	教員
医療	教育専門部門	7	4	松野 純男
				大内 秀一
				和田 哲幸
				船上 仁範
				八軒 浩子
創薬	医薬品化学研究室	38	10	前川 智弘 松岡 純平
医療	有機薬化学研究室	38	10	田邊 元三 石川 文洋 高島 克輝
医療	病態分子解析学研究室	38	10	多賀 淳 三田村邦子 山本 哲志
医療	公衆衛生学研究室	38	9	川崎 直人 緒方 文彦 植松 勇伍
創薬	創薬分子設計学研究室	38	9	仲西 功
				西脇 敬二
				中村 真也
創薬	薬品分析学研究室	38	9	木下 充弘 山本佐知雄
薬学 総合 研究所	機能性植物工学研究室	6	4	角谷 晃司
		38	9	中村 恭子
	食品薬学研究室	6	4	森川 敏生 西殿 悠人
	先端バイオ医薬研究室	6	4	森山 博由
	教養・基礎教育部門	39	4	武富 利亜 ウィリアムフィゴーニ 田中 博晃

近畿大学東大阪キャンパス校舎配置図 (令和8年4月現在)

 = AED(自動体外式除細動器)設置場所

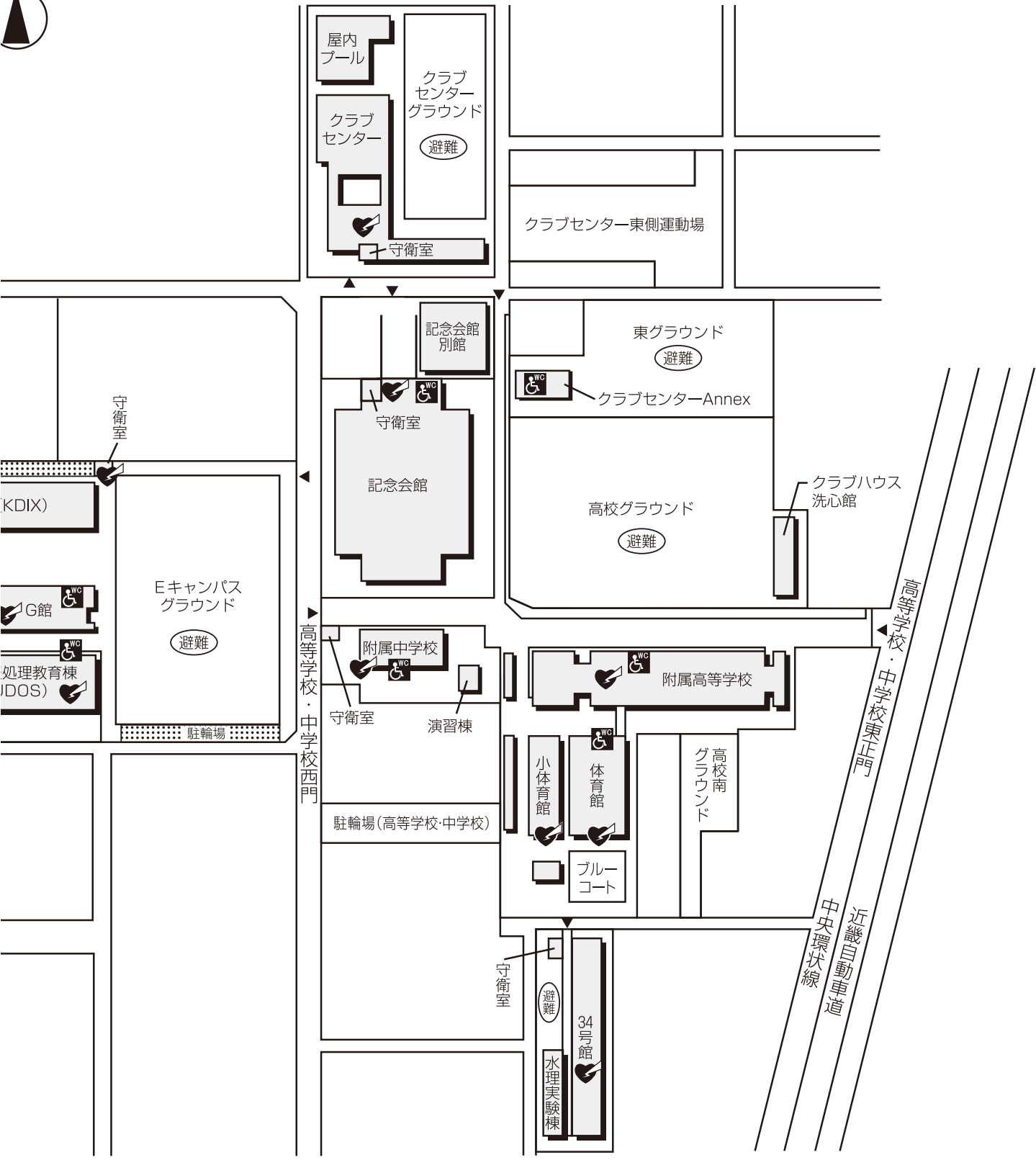
 = 車椅子で利用できるトイレの設置場所

 = 災害時一時避難場所



AED(自動体外式除細動器)設置場所

1号館(1階 守衛室前)	22号館B棟(1階 学科事務室前)	立体駐車場(守衛室前)	クラブセン
2号館(1階 実学ホール東側)	31号館西棟(3階 学科事務室前)	A館(1階 文芸学部学生センター前)	東門守衛室
3号館(1階 出入口自動扉前)	33号館(1階 アクティブ・ラーニング・commons前)	B館(1階 経済学部学生センター前)	西門守衛室
5号館(2階 アカデミックシアター事務室前)	34号館(1階 南側出入口付近)	C館(1階 法学部学生センター前)	Eキャンパ
7号館(1階 北側入口前)	38号館(1階 理工学部学生センター前)	E館(1階 情報学部学生センター前)	バイク駐輪
10号館(1階 中央図書館内)	39号館(1階 薬学部学生センター前)	G館(1階 総合社会学部学生センター前)	Eキャンパ
18号館(1階 国際学部学生センター前)	11月ホール(1階 大ホール出入口前、学生部内)	KUDOS(1階 インフォメーション前)	KINCUBA
21号館(2階 経営学部学生センター前)	(3階 メディカルサポートセンター内)	記念会館(1階 守衛室前)	



車椅子用トイレ設置場所

ター(1階 守衛室前)	1号館(1階)	18号館(南棟)(1階)	33号館(1階)	D館(1階)
≡(守衛室内)	3号館(1階、2階)	18号館(中棟)(1階)	38号館(1階、6階)	E館(1階)
≡(守衛室内)	6号館(1階)	19号館(1階)	39号館(1階、6階)	G館(1階)
≡守衛室(守衛室内)	7号館(1階、2階)	20号館(1階、4階)	11月ホール(地下1階、1階、3階)	英語村(1階)
≡場(守衛室内)	10号館(1、10階)	21号館(1階)	A館(1階)	KUDOS(1階)
≡グラウンド(守衛室前)	17号館(1階)	22号館(1階)	B館(1階)	BLOSSOM CAFÉ(2、3階)
≡Bacecamp(1階 カウンター横)	18号館(北棟)(1階)	31号館(1階)	C館(1階)	記念会館(1階)

薬学部履修要項 2026

2026.4 印刷発行

発行者 近畿大学 薬学部

編集 近畿大学 薬学部

所在地 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1

電話番号 (06) 4307-3058

 近畿大学